

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-261009

(43)Date of publication of application : 29.09.1998

(51)Int.Cl. G06F 17/60

(21)Application number : 08-341934

(71)Applicant : INO RYOICHI

(22)Date of filing : 20.12.1996

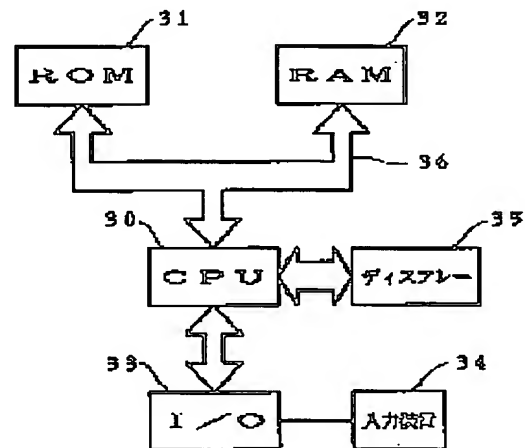
(72)Inventor : INO RYOICHI

## (54) METHOD AND DEVICE FOR PROCESSING ASSESSMENT OF USED CAR

### (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To make any body possible to calculate a dealer assessed price easily in a short time, by determining a basic assessed price while specifying the mission, grade and body color of a car to be assessed, and correcting this determined basic assessed price by the total mileage data of the object car to be assessed.

**SOLUTION:** The processor for assessment of used car is basically composed of a CPU 30, ROM 31, RAM 32, I/O 33, input device 34, display 35 and bus line 36 for connecting respective machines. In this case, the first year registration date and automobile inspection maturity date of present car as assessment object taken by a user are inputted, a maker name and a car type are selected, its displacement is inputted and the mission, grade and body color of that car to be assessed are specified. Thus, the basic assessed price based on the first year registration date is determined on the assumption of reference mileage, this determined basic assessed price is corrected according to the total mileage of present car, and the proper dealer assessed price is calculated.



## LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-261009

(43) 公開日 平成10年(1998) 9月29日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>  
G 0 6 F 17/60

識別記号

F I  
G 0 6 F 15/21

D

審査請求 未請求 請求項の数18 O L (全 37 頁)

(21) 出願番号 特願平8-341934

(22) 出願日 平成8年(1996)12月20日

(71) 出願人 393031243

伊野 良一

東京都杉並区方南2丁目4番7号

(72) 発明者 伊野 良一

東京都杉並区成田東1丁目25番8号

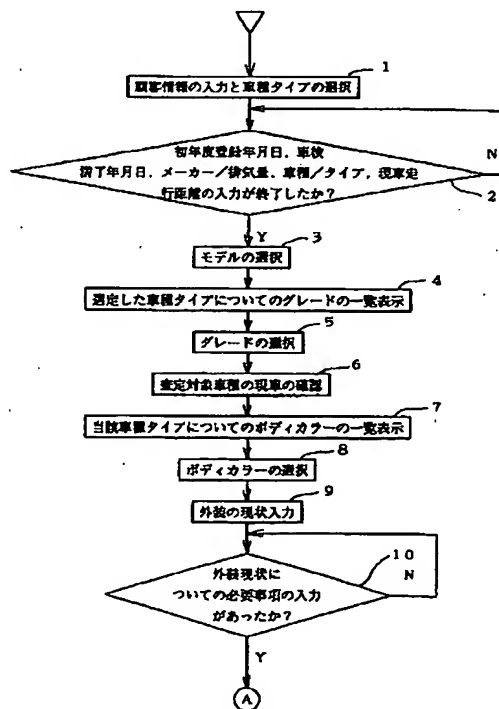
(74) 代理人 弁理士 大塚 明博 (外1名)

(54) 【発明の名称】 中古車の評価査定の処理方法、及び中古車の評価査定の処理装置

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 基本査定価格を査定対象車の総走行距離データによって修正して適正なディーラー査定価格を簡単に算出できるようにする。

【解決手段】 製造メーカーの発売期間における車種タイプ、グレードの車種として発売された予め記憶されているボディカラーから査定対象車のボディカラーを選定し、査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された新車価格を基に予め記憶されている年式によって査定された基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格に、査定対象車の走行距離と当該車種タイプの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加減算して確定査定価格を決定する。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 中古車の評価査定を行うに当たり、査定対象車の初年度登録年月日及び車検満了年月日を特定し、当該査定対象車の製造メーカーと排気量を特定して、前記査定対象車の車種タイプとミッションとを特定すると共に、メーターの状況及び当該査定対象車の走行距離を特定することによって査定対象車の特定を行い、前記初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定し、前記発売期間のモデル車種について予め記憶されたグレードの中から当該査定対象車のグレード、エンジン型式、駆動装置、ドア数、過給器、乗車定員を選定し、前記製造メーカーの前記発売期間における前記車種タイプ、前記グレードの車種として発売された予め記憶されているボディカラーから当該査定対象車のボディカラーを選定し、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された予め記憶されている年式によって査定された基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格に、前記査定対象車の走行距離と当該車種タイプの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を決定するようにした中古車の評価査定の処理方法。

【請求項2】 中古車の評価査定を行うに当たり、査定対象車の初年度登録年月日及び車検満了年月日を特定し、当該査定対象車の製造メーカーと排気量を特定して、前記査定対象車の車種タイプとミッションとを特定すると共に、メーターの状況及び当該査定対象車の走行距離を特定することによって査定対象車の特定を行い、前記初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定し、前記発売期間のモデル車種について予め記憶されたグレードの中から当該査定対象車のグレード、エンジン型式、駆動装置、ドア数、過給器、乗車定員を選定し、前記製造メーカーの前記発売期間における前記車種タイプ、前記グレードの車種として発売された予め記憶されているボディカラーから当該査定対象車のボディカラーを選定し、当該査定対象車の外装の現況による加減算額を求め、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された予め記憶されている年式によって査定された基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格に、前記外装の現況による加減算額と、前記査定対象車の走行距離と当該車種タイプの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額

に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を決定するようにした中古車の評価査定の処理方法。

【請求項3】 中古車の評価査定を行うに当たり、査定対象車の初年度登録年月日及び車検満了年月日を特定し、当該査定対象車の製造メーカーと排気量を特定して、前記査定対象車の車種タイプとミッションとを特定すると共に、メーターの状況及び当該査定対象車の走行距離を特定することによって査定対象車の特定を行い、前記初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定し、前記発売期間のモデル車種について予め記憶されたグレードの中から当該査定対象車のグレード、エンジン型式、駆動装置、ドア数、過給器、乗車定員を選定し、前記製造メーカーの前記発売期間における前記車種タイプ、前記グレードの車種として発売された予め記憶されているボディカラーから当該査定対象車のボディカラーを選定し、当該査定対象車の内装の現況による加減算額を求め、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された予め記憶されている年式によって査定された基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格に、前記内装の現況による加減算額と、前記査定対象車の走行距離と当該車種タイプの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を決定するようにした中古車の評価査定の処理方法。

【請求項4】 中古車の評価査定を行うに当たり、査定対象車の初年度登録年月日及び車検満了年月日を特定し、当該査定対象車の製造メーカーと排気量を特定して、前記査定対象車の車種タイプとミッションとを特定すると共に、メーターの状況及び当該査定対象車の走行距離を特定することによって査定対象車の特定を行い、前記初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定し、前記発売期間のモデル車種について予め記憶されたグレードの中から当該査定対象車のグレード、エンジン型式、駆動装置、ドア数、過給器、乗車定員を選定し、前記製造メーカーの前記発売期間における前記車種タイプ、前記グレードの車種として発売された予め記憶されているボディカラーから当該査定対象車のボディカラーを選定し、当該査定対象車の電装品の現況による加減算額を求め、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された予め記憶されている年式によって査定された基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格に、前記電装品の現況による加減算額と、前記査定対象車の走行距離と当該車種タイプの標

準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を決定するようにした中古車の評価査定の処理方法。

【請求項5】 中古車の評価査定を行うに当り、査定対象車の初年度登録年月日及び車検満了年月日を特定し、当該査定対象車の製造メーカーと排気量を特定して、前記査定対象車の車種タイプとミッションとを特定すると共に、メーターの状況及び当該査定対象車の走行距離を特定することによって査定対象車の特定を行い、前記初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定し、前記発売期間のモデル車種について予め記憶されたグレードの中から当該査定対象車のグレード、エンジン型式、駆動装置、ドア数、過給器、乗車定員を選定し、前記製造メーカーの前記発売期間における前記車種タイプ、前記グレードの車種として発売された予め記憶されているボディカラーから当該査定対象車のボディカラーを選定し、当該査定対象車の機関・足回りの現況による加減算額を求め、

前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された予め記憶されている年式によって査定された基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格に、前記機関・足回りの現況による加減算額と、前記査定対象車の走行距離と当該車種タイプの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を決定するようにした中古車の評価査定の処理方法。

【請求項6】 中古車の評価査定を行うに当り、査定対象車の初年度登録年月日及び車検満了年月日を特定し、当該査定対象車の製造メーカーと排気量を特定して、前記査定対象車の車種タイプとミッションとを特定すると共に、メーターの状況及び当該査定対象車の走行距離を特定することによって査定対象車の特定を行い、前記初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定し、前記発売期間のモデル車種について予め記憶されたグレードの中から当該査定対象車のグレード、エンジン型式、駆動装置、ドア数、過給器、乗車定員を選定し、前記製造メーカーの前記発売期間における前記車種タイプ、前記グレードの車種として発売された予め記憶されているボディカラーから当該査定対象車のボディカラーを選定し、当該査定対象車の外装の現況による加減算額を求め、

当該査定対象車の内装の現況による加減算額を求め、

当該査定対象車の電装品の現況による加減算額を求め、当該査定対象車の機関・足回りの現況による加減算額を求め、

前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された予め記憶されている年式によって査定された基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格に、前記外装の現況による加減算額と、前記内装の現況による加減算額と、前記電装品の現況による加減算額と、前記機関・足回りの現況による加減算額と、前記査定対象車の走行距離と当該車種タイプの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を決定するようにした中古車の評価査定の処理方法。

【請求項7】 上記基本査定価格は、基本査定額から正及び負方向に予め設定された複数個の査定ベース額の中から査定基本として選定した査定ベース額である請求項1、2、3、4、5又は6に記載の中古車の評価査定の処理方法。

【請求項8】 上記確定査定価格は、一旦選定された確定査定価格に正又は負の一定額を加算した額を選定して求めたものである請求項1、2、3、4、5、6又は7に記載の中古車の評価査定の処理方法。

【請求項9】 上記外装の現況は、修復歴の有無、改造の有無、全塗装の必要性の有無、現状事故車か否かのいずれかである請求項2、6、7又は8に記載の中古車の評価査定の処理方法。

【請求項10】 上記内装の現況は、室内の状況の問題の有無、トランクルームの状況の問題の有無、タバコ・ペットの臭いの問題の有無、ダッシュボードの破損の問題の有無のいずれかである請求項3、6、7又は8に記載の中古車の評価査定の処理方法。

【請求項11】 上記電装品の現況は、エアコンの使用の可否、バッテリーの使用の可否、時計の使用の可否、パワーウィンドウ左前の使用の可否、パワーウィンドウ左後の使用の可否、パワーウィンドウ右前の使用の可否、パワーウィンドウ右後の使用の可否、ワイパー関係の使用の可否、メーターパネルの使用の可否のいずれかである請求項4、6、7又は8に記載の中古車の評価査定の処理方法。

【請求項12】 上記機関・足回りの現況は、エンジンの通常の使用の可否、ミッションの通常の使用の可否、動力伝達装置の通常の使用の可否、ステアリングの通常の使用の可否、サスペンションの通常の使用の可否、ブレーキの通常の使用の可否、マフラーの通常の使用の可否、その他の機関・足回りの通常の使用の可否のいずれかである請求項5、6、7又は8に記載の中古車の評価査定の処理方法。

【請求項13】 予め記憶されている多数の製造メーカ

一の中から査定対象車の製造メーカーを選定する製造メーカー選定手段と、査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、排気量を入力する初年度登録等入力手段と、前記製造メーカー選定手段において選定した製造メーカーと、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日・排気量に基づいて、予め記憶されている初年度登録年月日に発売された該製造メーカーの車種タイプの中から査定対象車の車種タイプを選定する車種タイプ選定手段と、査定対象車の現在の総走行距離を入力する走行距離入力手段と、前記車種タイプ選定手段によって選定した査定対象車の車種タイプに基づいて、予め記憶されている当該車種タイプに存在する複数のグレードの中から査定対象車のグレードを選定するグレード選定手段と、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定する発売期間選定手段と、前記発売期間選定手段によって選定された発売期間に基づいて、予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該査定対象車のボディカラーを選定するボディカラー選定手段と、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格を選択し、該基本査定価格に、該査定対象車と同一の車種タイプが当該査定対象車と同一の期間経過したときの標準的な走行距離との多少に基づき1km当りの評価額によって決定される加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を確定する確定査定価格演算手段と、によって構成してなる中古車の評価査定の処理装置。

【請求項14】 予め記憶されている多数の製造メーカーの中から査定対象車の製造メーカーを選定する製造メーカー選定手段と、査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、排気量を入力する初年度登録等入力手段と、前記製造メーカー選定手段において選定した製造メーカーと、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日・排気量に基づいて、予め記憶されている初年度登録年月日に発売された該製造メーカーの車種タイプの中から査定対象車の車種タイプを選定する車種タイプ選定手段と、査定対象車の現在の総走行距離を入力する走行距離入力手段と、前記車種タイプ選定手段によって選定した査定対象車の車種タイプに基づいて、予め記憶されている当該車種タイプに存在する複数のグレードの中から査定対象車のグレードを選定するグレード選定手段と、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モ

デルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定する発売期間選定手段と、前記発売期間選定手段によって選定された発売期間に基づいて、予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該査定対象車のボディカラーを選定するボディカラー選定手段と、前記査定対象車の外装の現況の変化による加減算額を入力する外装査定額入力手段と、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格を選択し、該基本査定価格に、前記外装査定額入力手段に基いて査定した外装の現況による査定額と該査定対象車と同一の車種タイプが当該査定対象車と同一の期間経過したときの標準的な走行距離との多少に基づき1km当りの評価額によって決定される加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を確定する確定査定価格演算手段と、によって構成してなる中古車の評価査定の処理装置。

【請求項15】 予め記憶されている多数の製造メーカーの中から査定対象車の製造メーカーを選定する製造メーカー選定手段と、査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、排気量を入力する初年度登録等入力手段と、前記製造メーカー選定手段において選定した製造メーカーと、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日・排気量に基づいて、予め記憶されている初年度登録年月日に発売された該製造メーカーの車種タイプの中から査定対象車の車種タイプを選定する車種タイプ選定手段と、査定対象車の現在の総走行距離を入力する走行距離入力手段と、前記車種タイプ選定手段によって選定した査定対象車の車種タイプに基づいて、予め記憶されている当該車種タイプに存在する複数のグレードの中から査定対象車のグレードを選定するグレード選定手段と、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定する発売期間選定手段と、前記発売期間選定手段によって選定された発売期間に基づいて、予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該査定対象車のボディカラーを選定するボディカラー選定手段と、前記査定対象車の内装の現況の変化による加減算額を入力する内装加減算額入力手段と、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格を選択し、該基本査定価格に、前記内装査定額入力手段に基いて査定した内装の現況による査定額と該査定対象車と同一の車種タイプが当該査定対

象車と同一の期間経過したときの標準的な走行距離との多少に基づき1km当りの評価額によって決定される加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を確定する確定査定価格演算手段と、によって構成してなる中古車の評価査定の処理装置。

【請求項16】 予め記憶されている多数の製造メーカーの中から査定対象車の製造メーカーを選定する製造メーカー選定手段と、査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、排気量を入力する初年度登録等入力手段と、前記製造メーカー選定手段において選定した製造メーカーと、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日・排気量に基づいて、予め記憶されている初年度登録年月日に発売された該製造メーカーの車種タイプの中から査定対象車の車種タイプを選定する車種タイプ選定手段と、査定対象車の現在の総走行距離を入力する走行距離入力手段と、前記車種タイプ選定手段によって選定した査定対象車の車種タイプに基づいて、予め記憶されている当該車種タイプに存在する複数のグレードの中から査定対象車のグレードを選定するグレード選定手段と、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定する発売期間選定手段と、前記発売期間選定手段によって選定された発売期間に基づいて、予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該査定対象車のボディカラーを選定するボディカラー選定手段と、前記査定対象車の電装品の現況の変化による加減算額を入力する電装品加減算額入力手段と、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格を選択し、該基本査定価格に、前記電装品加減算額入力手段に基いて査定した内装の現況による査定額と該査定対象車と同一の車種タイプが当該査定対象車と同一の期間経過したときの標準的な走行距離との多少に基づき1km当りの評価額によって決定される加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を確定する確定査定価格演算手段と、によって構成してなる中古車の評価査定の処理装置。

【請求項17】 予め記憶されている多数の製造メーカーの中から査定対象車の製造メーカーを選定する製造メーカー選定手段と、査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、排気量を入力する初年度登録等入力手段と、前記製造メーカー選定手段において選定した製造メーカーと、前記初年度登録等入力手段によって入力した

初年度登録年月日・排気量に基づいて、予め記憶されている初年度登録年月日に発売された該製造メーカーの車種タイプの中から査定対象車の車種タイプを選定する車種タイプ選定手段と、査定対象車の現在の総走行距離を入力する走行距離入力手段と、前記車種タイプ選定手段によって選定した査定対象車の車種タイプに基づいて、予め記憶されている当該車種タイプに存在する複数のグレードの中から査定対象車のグレードを選定するグレード選定手段と、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定する発売期間選定手段と、前記発売期間選定手段によって選定された発売期間に基づいて、予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該査定対象車のボディカラーを選定するボディカラー選定手段と、前記査定対象車の機関・足回りの現況の変化による加減算額を入力する機関・足回り加減算額入力手段と、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格を選択し、該基本査定価格に、前記機関・足回り加減算額入力手段に基いて査定した機関・足回りの現況による査定額と該査定対象車と同一の車種タイプが当該査定対象車と同一の期間経過したときの標準的な走行距離との多少に基づき1km当りの評価額によって決定される加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を確定する確定査定価格演算手段と、によって構成してなる中古車の評価査定の処理装置。

【請求項18】 予め記憶されている多数の製造メーカーの中から査定対象車の製造メーカーを選定する製造メーカー選定手段と、査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、排気量を入力する初年度登録等入力手段と、前記製造メーカー選定手段において選定した製造メーカーと、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日・排気量に基づいて、予め記憶されている初年度登録年月日に発売された該製造メーカーの車種タイプの中から査定対象車の車種タイプを選定する車種タイプ選定手段と、査定対象車の現在の総走行距離を入力する走行距離入力手段と、前記車種タイプ選定手段によって選定した査定対象車の車種タイプに基づいて、予め記憶されている当該車種タイプに存在する複数のグレードの中から査定対象車のグレードを選定するグレード選定手段と、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定する発売期間選定手段と、前記



発売期間選定手段によって選定された発売期間に基づいて、予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該査定対象車のボディカラーを選定するボディカラー選定手段と、前記査定対象車の外装の現況の変化による加減算額を入力する外装査定額入力手段と、前記査定対象車の内装の現況の変化による加減算額を入力する内装査定額入力手段と、前記査定対象車の電装品の現況の変化による加減算額を入力する電装品加減算額入力手段と、前記査定対象車の機関・足回りの現況の変化による加減算額を入力する機関・足回り加減算額入力手段と、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格を選択し、該基本査定価格に、前記外装査定額入力手段に基いて査定した外装の現況による査定額と、前記内装査定額入力手段に基いて査定した内装の現況による査定額と、前記電装品加減算額入力手段に基いて査定した内装の現況による査定額と、前記機関・足回り加減算額入力手段に基いて査定した機関・足回りの現況による査定額と、前記査定対象車と同一の車種タイプが当該査定対象車と同一の期間経過したときの標準的な走行距離との多少に基づき1km当りの評価額によって決定される加減算額に基づく走行距離実績額とを加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を確定する確定査定価格演算手段と、によって構成してなる中古車の評価査定の処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、中古車の評価額を査定するときに行う評価査定の処理方法及び装置に関する。

【0002】

【従来の技術】経済事情の変化に伴い自動車産業は拡大し、それに伴い中古車市場も肥大化している。このように中古車市場が大きくなった今日、中古車業者及び需要者は、中古車が適正な価額で売買されることを強く望んでいる。このため、種々なる条件を基礎として設定された中古車の基準となる価額をメーカー別、車種タイプ別、グレード別に表にした冊子が業者向けに発行され、また需要者向けとして各種自動車関係雑誌等に掲載されている。かかる中古車価額の設定は、年式、仕様、グレードの他にその時の人気度合いをも基礎として冊子から探し出すようになっている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】このような冊子は、中古車業者（ディーラー）が一般ユーザーから中古車を引き取る際の査定価格を決定するときに用いるものである。このため、この冊子では、メーカー毎、車種タイプ毎、年式毎、仕様毎、グレード毎、ボディカラー毎に

分類されて価格が設定されている。そこで、一般ユーザーが中古車業者に、自己車（中古車）を売るために持ち込んだ場合、中古車業者は、一般ユーザーから持ち込まれた査定対象車について、メーカー名、車種、タイプ、年式、仕様、グレード、ボディカラーを中古車業者自らが特定し、この冊子に纏められている表の中から特定した中古車に該当する車種の基本査定価格（車を単なる物品として算出した新車価格からの残存価格）を選び出して決定し、現時点の当該車種の人気の度合い、走行距離の相違、各種部品の傷み具合等による査定者（中古車業者）の特別加減算額を加味して、当該査定対象車の最終査定価格を決定していた。

【0004】この冊子は、掲載されている自動車のメーカー数が多数に及び、各メーカーにおける車種数、その各車種におけるタイプ数、その各タイプにおける発売年式の数、その各発売年式におけるグレード数、さらに、その各グレードにおけるボディカラーの数も多岐に亘り、それに伴って査定する際の査定項目が多くなっている。しかし、この冊子は、中古車業者（ディーラー）向けに作成されており、中古車業者が初めて使用する場合（初心者）であっても分かりやすく作製されている。そして、この冊子では、細かく査定内容が決められており、これらの細かな査定内容を間違いなく特定していくことによって、初心者にでも時間を掛ければ正確な査定額を算出することができるようになっている。ところが、この冊子は、初心者にでも正確な査定額の算出ができるように、また、誰が査定しても正確な査定額を算出できるようにするため、査定項目が多く細かく表示されており、冊子を見るとき相当注意しないと間違った箇所（段を間違える等）を見てしまうことがある。このように、冊子の表の見間違いをすると中古車の下取り評価額を正しく査定することができず、標準査定より高く査定したり、標準査定より低く査定したりして、査定対象車の中古車価格が正確に査定されないことがある。

【0005】本発明の第1の目的は、ユーザーが持ち込んだ査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日を入力し、メーカー名、車種タイプを選定し、排気量を入力し、当該査定車のミッション、グレード、ボディカラーを特定することによって基本査定価格を決定し、該決定した基本査定価格を、査定対象車の総走行距離データによって修正して適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出できるようにしようということにある。

【0006】本発明の第2の目的は、ユーザーが持ち込んだ査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日を入力し、メーカー名、車種タイプを選定し、排気量を入力し、当該査定車のミッション、グレード、ボディカラーを特定することによって基本査定価格を決定し、該決定した基本査定価格を、査定対象車の総走行距離データに加え、査定対象車の内外装の現況、電装品の現況、

機関・足回りの現況等の諸データによって修正して適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出できるようにしようということにある。

【0007】

【課題を解決するための手段】本願請求項1に記載の中古車の評価査定の処理方法は、中古車の評価査定を行うに当たり、査定対象車の初年度登録年月日及び車検満了年月日を特定し、当該査定対象車の製造メーカーと排気量を特定して、前記査定対象車の車種タイプとミッションとを特定すると共に、メーターの状況及び当該査定対象車の走行距離を特定することによって査定対象車の特定を行い、前記初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定し、前記発売期間のモデル車種について予め記憶されたグレードの中から当該査定対象車のグレード、エンジン型式、駆動装置、ドア数、過給器、乗車定員を選定し、前記製造メーカーの前記発売期間における前記車種タイプ、前記グレードの車種として発売された予め記憶されているボディカラーから当該査定対象車のボディカラーを選定し、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された予め記憶されている年式によって査定された基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格に、前記査定対象車の走行距離と当該車種タイプの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を決定するようにしたものである。このように構成することによって、適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0008】本願請求項2に記載の中古車の評価査定の処理方法は、中古車の評価査定を行うに当たり、査定対象車の初年度登録年月日及び車検満了年月日を特定し、当該査定対象車の製造メーカーと排気量を特定して、前記査定対象車の車種タイプとミッションとを特定すると共に、メーターの状況及び当該査定対象車の走行距離を特定することによって査定対象車の特定を行い、前記初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定し、前記発売期間のモデル車種について予め記憶されたグレードの中から当該査定対象車のグレード、エンジン型式、駆動装置、ドア数、過給器、乗車定員を選定し、前記製造メーカーの前記発売期間における前記車種タイプ、前記グレードの車種として発売された予め記憶されているボディカラーから当該査定対象車のボディカラーを選定し、当該査定対象車の外装の現況による加減算額を求め、前記査定対象車の車種タイプ、

グレード及びボディカラーに基づいて選定された予め記憶されている年式によって査定された基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格に、前記外装の現況による加減算額と、前記査定対象車の走行距離と当該車種タイプの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を決定するようにしたものである。このように構成することによって、外装の現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0009】本願請求項3に記載の中古車の評価査定の処理方法は、中古車の評価査定を行うに当たり、査定対象車の初年度登録年月日及び車検満了年月日を特定し、当該査定対象車の製造メーカーと排気量を特定して、前記査定対象車の車種タイプとミッションとを特定すると共に、メーターの状況及び当該査定対象車の走行距離を特定することによって査定対象車の特定を行い、前記初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定し、前記発売期間のモデル車種について予め記憶されたグレードの中から当該査定対象車のグレード、エンジン型式、駆動装置、ドア数、過給器、乗車定員を選定し、前記製造メーカーの前記発売期間における前記車種タイプ、前記グレードの車種として発売された予め記憶されているボディカラーから当該査定対象車のボディカラーを選定し、当該査定対象車の内装の現況による加減算額を求め、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された予め記憶されている年式によって査定された基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格に、前記内装の現況による加減算額と、前記査定対象車の走行距離と当該車種タイプの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を決定するようにしたものである。このように構成することによって、内装の現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0010】本願請求項4に記載の中古車の評価査定の処理方法は、中古車の評価査定を行うに当たり、査定対象車の初年度登録年月日及び車検満了年月日を特定し、当該査定対象車の製造メーカーと排気量を特定して、前記査定対象車の車種タイプとミッションとを特定すると共に、メーターの状況及び当該査定対象車の走行距離を特定することによって査定対象車の特定を行い、前記初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の



発売期間を選定し、前記発売期間のモデル車種について予め記憶されたグレードの中から当該査定対象車のグレード、エンジン型式、駆動装置、ドア数、過給器、乗車定員を選定し、前記製造メーカーの前記発売期間における前記車種タイプ、前記グレードの車種として発売された予め記憶されているボディカラーから当該査定対象車のボディカラーを選定し、当該査定対象車の電装品の現況による加減算額を求め、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディーカラーに基づいて選定された予め記憶されている年式によって査定された基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格に、前記電装品の現況による加減算額と、前記査定対象車の走行距離と当該車種タイプの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を決定するようにしたものである。このように構成することによって、電装品の現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0011】本願請求項5に記載の中古車の評価査定の処理方法は、中古車の評価査定を行うに当り、査定対象車の初年度登録年月日及び車検満了年月日を特定し、当該査定対象車の製造メーカーと排気量を特定して、前記査定対象車の車種タイプとミッションとを特定すると共に、メーターの状況及び当該査定対象車の走行距離を特定することによって査定対象車の特定を行い、前記初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定し、前記発売期間のモデル車種について予め記憶されたグレードの中から当該査定対象車のグレード、エンジン型式、駆動装置、ドア数、過給器、乗車定員を選定し、前記製造メーカーの前記発売期間における前記車種タイプ、前記グレードの車種として発売された予め記憶されているボディカラーから当該査定対象車のボディカラーを選定し、当該査定対象車の機関・足回りの現況による加減算額を求め、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディーカラーに基づいて選定された予め記憶されている年式によって査定された基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格に、前記機関・足回りの現況による加減算額と、前記査定対象車の走行距離と当該車種タイプの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を決定するようにしたものである。このように構成することによって、機関・足回りの現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0012】本願請求項6に記載の中古車の評価査定の処理方法は、中古車の評価査定を行うに当り、査定対象車の初年度登録年月日及び車検満了年月日を特定し、当該査定対象車の製造メーカーと排気量を特定して、前記査定対象車の車種タイプとミッションとを特定すると共に、メーターの状況及び当該査定対象車の走行距離を特定することによって査定対象車の特定を行い、前記初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定し、前記発売期間のモデル車種について予め記憶されたグレードの中から当該査定対象車のグレード、エンジン型式、駆動装置、ドア数、過給器、乗車定員を選定し、前記製造メーカーの前記発売期間における前記車種タイプ、前記グレードの車種として発売された予め記憶されているボディカラーから当該査定対象車のボディカラーを選定し、当該査定対象車の外装の現況による加減算額を求め、当該査定対象車の内装の現況による加減算額を求め、当該査定対象車の電装品の現況による加減算額を求め、当該査定対象車の機関・足回りの現況による加減算額を求め、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディーカラーに基づいて選定された予め記憶されている年式によって査定された基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格に、前記外装の現況による加減算額と、前記内装の現況による加減算額と、前記電装品の現況による加減算額と、前記機関・足回りの現況による加減算額と、前記査定対象車の走行距離と当該車種タイプの標準走行距離との多少に基づいて1km当りの加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を決定するようにしたものである。このように構成することによって、外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況を加味した最適なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0013】本願請求項7に記載の中古車の評価査定の処理方法は、上記基本査定価格を、基本査定額から正及び負方向に予め設定された複数個の査定ベース額の中から査定基本として選定した査定ベース額にしたものである。このように構成することによって、査定ベース額に裁量を加えてディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0014】本願請求項8に記載の中古車の評価査定の処理方法は、上記確定査定価格を、一旦選定された確定査定価格に正又は負の一定額を加算した額を選定して求めるようにしたものである。このように構成することによって、一旦査定したディーラー査定価格に裁量を加えて演算して再査定による確定査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0015】本願請求項9に記載の中古車の評価査定処理方法は、上記外装の現況を、修復歴の有無、改造の有無、全塗装の必要性の有無、現状事故車か否かのいずれかにしたものである。このように構成することによって、外装の現況を正確に把握し、ディーラー査定価格に適正に反映させ、適正な確定査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0016】本願請求項10に記載の中古車の評価査定の処理方法は、上記内装の現況を、室内の状況の問題の有無、トランクルームの状況の問題の有無、タバコ・ペットの臭いの問題の有無、ダッシュボードの破損の問題の有無のいずれかにしたものである。このように構成することによって、内装の現況を正確に把握し、ディーラー査定価格に適正に反映させ、適正な確定査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0017】本願請求項11に記載の中古車の評価査定の処理方法は、上記電装品の現況を、エアコンの使用の可否、バッテリーの使用の可否、時計の使用の可否、パワーウインドウ左前の使用の可否、パワーウインドウ左後の使用の可否、パワーウインドウ右前の使用の可否、パワーウインドウ右後の使用の可否、ワイパー関係の使用の可否、メーターパネルの使用の可否のいずれかにしたものである。このように構成することによって、電装品の現況を正確に把握し、ディーラー査定価格に適正に反映させ、適正な確定査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0018】本願請求項12に記載の中古車の評価査定の処理方法は、上記機関・足回りの現況を、エンジンの通常の使用の可否、ミッションの通常の使用の可否、動力伝達装置の通常の使用の可否、ステアリングの通常の使用の可否、サスペンションの通常の使用の可否、ブレーキの通常の使用の可否、マフラーの通常の使用の可否、その他の機関・足回りの通常の使用の可否のいずれかにしたものである。このように構成することによって、機関・足回りの現況を正確に把握し、ディーラー査定価格に適正に反映させ、適正な確定査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0019】本願請求項13に記載の中古車の評価査定の処理装置は、予め記憶されている多数の製造メーカーの中から査定対象車の製造メーカーを選定する製造メーカー選定手段と、査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、排気量を入力する初年度登録等入力手段と、前記製造メーカー選定手段において選定した製造メーカーと、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日・排気量に基づいて、予め記憶されている初年度登録年月日に発売された該製造メーカーの車種タイプの中から査定対象車の車種タイプを選定する車種タイプ選定手段と、査定対象車の現在の総走行距離を入力する走行距離入力手段と、前記車種タイプ選定手段によって選定した査定対象車の車種タイプに基づいて、

予め記憶されている当該車種タイプに存在する複数のグレードの中から査定対象車のグレードを選定するグレード選定手段と、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定する発売期間選定手段と、前記発売期間選定手段によって選定された発売期間に基づいて、予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該査定対象車のボディカラーを選定するボディカラー選定手段と、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格を選択し、該基本査定価格に、該査定対象車と同一の車種タイプが当該査定対象車と同一の期間経過したときの標準的な走行距離との多少に基づき1km当りの評価額によって決定される加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を確定する確定査定価格演算手段と、によって構成したものである。このように構成することによって、適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0020】本願請求項14に記載の中古車の評価査定の処理装置は、予め記憶されている多数の製造メーカーの中から査定対象車の製造メーカーを選定する製造メーカー選定手段と、査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、排気量を入力する初年度登録等入力手段と、前記製造メーカー選定手段において選定した製造メーカーと、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日・排気量に基づいて、予め記憶されている初年度登録年月日に発売された該製造メーカーの車種タイプの中から査定対象車の車種タイプを選定する車種タイプ選定手段と、査定対象車の現在の総走行距離を入力する走行距離入力手段と、前記車種タイプ選定手段によって選定した査定対象車の車種タイプに基づいて、予め記憶されている当該車種タイプに存在する複数のグレードの中から査定対象車のグレードを選定するグレード選定手段と、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定する発売期間選定手段と、前記発売期間選定手段によって選定された発売期間に基づいて、予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該査定対象車のボディカラーを選定するボディカラー選定手段と、前記査定対象車の外装の現況の変化による加減算額を入力する外装査定額入力手段と、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて

て選定された年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格を選択し、該基本査定価格に、前記外装査定額入力手段に基いて査定した外装の現況による査定額と該査定対象車と同一の車種タイプが当該査定対象車と同一の期間経過したときの標準的な走行距離との多少に基づき1km当りの評価額によって決定される加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を確定する確定査定価格演算手段と、によって構成したものである。このように構成することによって、外装の現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0021】本願請求項15に記載の中古車の評価査定の処理装置は、予め記憶されている多数の製造メーカーの中から査定対象車の製造メーカーを選定する製造メーカー選定手段と、査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、排気量を入力する初年度登録等入力手段と、前記製造メーカー選定手段において選定した製造メーカーと、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日・排気量に基づいて、予め記憶されている初年度登録年月日に発売された該製造メーカーの車種タイプの中から査定対象車の車種タイプを選定する車種タイプ選定手段と、査定対象車の現在の総走行距離を入力する走行距離入力手段と、前記車種タイプ選定手段によって選定した査定対象車の車種タイプに基づいて、予め記憶されている当該車種タイプに存在する複数のグレードの中から査定対象車のグレードを選定するグレード選定手段と、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定する発売期間選定手段と、前記発売期間選定手段によって選定された発売期間に基づいて、予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該査定対象車のボディカラーを選定するボディカラー選定手段と、前記査定対象車の内装の現況の変化による加減算額を入力する内装加減算額入力手段と、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格を選択し、該基本査定価格に、前記内装査定額入力手段に基いて査定した内装の現況による査定額と該査定対象車と同一の車種タイプが当該査定対象車と同一の期間経過したときの標準的な走行距離との多少に基づき1km当りの評価額によって決定される加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を確定する確定査定

価格演算手段と、によって構成したものである。このように構成することによって、内装の現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0022】本願請求項16に記載の中古車の評価査定の処理装置は、予め記憶されている多数の製造メーカーの中から査定対象車の製造メーカーを選定する製造メーカー選定手段と、査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、排気量を入力する初年度登録等入力手段と、前記製造メーカー選定手段において選定した製造メーカーと、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日・排気量に基づいて、予め記憶されている初年度登録年月日に発売された該製造メーカーの車種タイプの中から査定対象車の車種タイプを選定する車種タイプ選定手段と、査定対象車の現在の総走行距離を入力する走行距離入力手段と、前記車種タイプ選定手段によって選定した査定対象車の車種タイプに基づいて、予め記憶されている当該車種タイプに存在する複数のグレードの中から査定対象車のグレードを選定するグレード選定手段と、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定する発売期間選定手段と、前記発売期間選定手段によって選定された発売期間に基づいて、予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該査定対象車のボディカラーを選定するボディカラー選定手段と、前記査定対象車の電装品の現況の変化による加減算額を入力する電装品加減算額入力手段と、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格を選択し、該基本査定価格に、前記電装品加減算額入力手段に基いて査定した内装の現況による査定額と該査定対象車と同一の車種タイプが当該査定対象車と同一の期間経過したときの標準的な走行距離との多少に基づき1km当りの評価額によって決定される加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を確定する確定査定価格演算手段と、によって構成したものである。このように構成することによって、電装品の現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0023】本願請求項17に記載の中古車の評価査定の処理装置は、予め記憶されている多数の製造メーカーの中から査定対象車の製造メーカーを選定する製造メーカー選定手段と、査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、排気量を入力する初年度登録等入力手段と、前記製造メーカー選定手段において選定した製造メ

一カーと、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日・排気量に基づいて、予め記憶されている初年度登録年月日に発売された該製造メーカーの車種タイプの中から査定対象車の車種タイプを選定する車種タイプ選定手段と、査定対象車の現在の総走行距離を入力する走行距離入力手段と、前記車種タイプ選定手段によって選定した査定対象車の車種タイプに基づいて、予め記憶されている当該車種タイプに存在する複数のグレードの中から査定対象車のグレードを選定するグレード選定手段と、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定する発売期間選定手段と、前記発売期間選定手段によって選定された発売期間に基づいて、予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該査定対象車のボディカラーを選定するボディカラー選定手段と、前記査定対象車の機関・足回りの現況の変化による加減算額を入力する機関・足回り加減算額入力手段と、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格を選択し、該基本査定価格に、前記機関・足回り加減算額入力手段に基いて査定した機関・足回りの現況による査定額と該査定対象車と同一の車種タイプが当該査定対象車と同一の期間経過したときの標準的な走行距離との多少に基づき1km当りの評価額によって決定される加減算額に基づく走行距離実績額を加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を確定する確定査定価格演算手段と、によって構成したものである。このように構成することによって、機関・足回りの現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0024】本願請求項18に記載の中古車の評価査定の処理装置は、予め記憶されている多数の製造メーカーの中から査定対象車の製造メーカーを選定する製造メーカー選定手段と、査定対象車の初年度登録年月日、車検満了年月日、排気量を入力する初年度登録等入力手段と、前記製造メーカー選定手段において選定した製造メーカーと、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日・排気量に基づいて、予め記憶されている初年度登録年月日に発売された該製造メーカーの車種タイプの中から査定対象車の車種タイプを選定する車種タイプ選定手段と、査定対象車の現在の総走行距離を入力する走行距離入力手段と、前記車種タイプ選定手段によって選定した査定対象車の車種タイプに基づいて、予め記憶されている当該車種タイプに存在する複数のグレードの中から査定対象車のグレードを選定するグレー

ド選定手段と、前記初年度登録等入力手段によって入力した初年度登録年月日から予め記憶されている該初年度登録年月日当時販売されていた当該査定対象車と同一モデルの車種の1又は2以上の発売期間の中から当該査定対象車の発売期間を選定する発売期間選定手段と、前記発売期間選定手段によって選定された発売期間に基づいて、予め記憶されている複数のボディカラーの中から当該査定対象車のボディカラーを選定するボディカラー選定手段と、前記査定対象車の外装の現況の変化による加減算額を入力する外装査定額入力手段と、前記査定対象車の内装の現況の変化による加減算額を入力する内装査定額入力手段と、前記査定対象車の電装品の現況の変化による加減算額を入力する電装品加減算額入力手段と、前記査定対象車の機関・足回りの現況の変化による加減算額を入力する機関・足回り加減算額入力手段と、前記査定対象車の車種タイプ、グレード及びボディカラーに基づいて選定された年式別にそれぞれ査定された予め記憶されている複数の基本査定価格の中から当該査定対象車の年式の基本査定価格を選択し、該基本査定価格に、前記外装査定額入力手段に基いて査定した外装の現況による査定額と、前記内装査定額入力手段に基いて査定した内装の現況による査定額と、前記電装品加減算額入力手段に基いて査定した内装の現況による査定額と、前記機関・足回り加減算額入力手段に基いて査定した機関・足回りの現況による査定額と、前記査定対象車と同一の車種タイプが当該査定対象車と同一の期間経過したときの標準的な走行距離との多少に基づき1km当りの評価額によって決定される加減算額に基づく走行距離実績額とを加算すると共に車検の期間が残存する場合に1月当りの加算額に基づく車検残存期間加算額を加算して確定査定価格を確定する確定査定価格演算手段と、によって構成したものである。このように構成することによって、外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況を加味した最適なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

#### 【0025】

【発明の実施の形態】以下、本発明に係る実施の形態について説明する。図1～図20には、本発明に係る中古車の評価査定の処理方法及び中古車の評価査定の処理装置の一実施の形態が示されている。本発明に係る中古車の評価査定の処理方法は、コンピュータによって処理されるもので、図1～図3には、本発明に係る中古車の評価査定の処理方法の一実施の形態を示す査定処理フローチャートが示されている。

【0026】図において、ステップ1において、査定対象車（中古車）の査定を依頼してきた顧客者の顧客情報の入力と車種タイプの選定を行う。顧客情報には、査定対象車（中古車）の査定を依頼してきた顧客者の氏名、住所・電話番号がある。顧客者の氏名は、業者（ディーラー）に現車（査定対象車）を持ち込んだ人の氏名で、

住所・電話番号は、業者（ディーラー）に現車（査定対象車）を持ち込んだ人の住所と電話番号で、顧客を特定するためと、顧客リストを作成する際に整理するために役立てる。

【0027】また、査定対象車（中古車）の車種タイプの選定を行うための現車（査定対象車）の必要情報の入力を行う。車種タイプの選定のための現車情報には、初年度登録年月日、登録番号、車検満了年月日、台車番号、メーカー／排気量、車種／タイプ、ミッション、A／C有無、S／R有無、メーター状況、現車走行距離がある。さらに、査定する業者（ディーラー）の情報として担当区分、査定区分、査定担当者がある。初年度登録年月日は、新車で購入したときに陸運局（関東地方であれば、関東陸運局）に登録した日付で、例えば、平成7年12月8日などである。この初年度登録年月日は、年式を決定する上で重要な事項で、初年度登録年月日が、例えば、平成7年12月8日であれば、現車の年式は、平成7年1月～平成7年12月ということになる。

【0028】登録番号は、陸運局に登録した番号で、ナンバープレートに表示する番号で、例えば、練馬-33-は-8304などである。車検満了年月日は、実際に車検が満了する日で、初年度登録年月日から3年未満であれば、初年度登録年の3年後の応答日の前日、すなわち、例えば、初年度登録年月日が平成7年12月8日であれば、車検満了年月日は平成10年12月7日ということになる。2回目以降の車検の場合は、2年車検であるので初年度登録年月日から5年目、7年目ということになる。台車番号は、自動車ごとにつけられた番号で、例えば、88888である。メーカー／排気量は、台車番号が入力されると、予め記憶されている複数のメーカー名（例えば、日本のメーカーの場合、トヨタ、ニッサン、マツダ、三菱、いすゞ、ホンダ、スバル、ダイハツ）が表示され、この中から現車に該当するメーカー名を選択できるようになっている。表示されたメーカー名の中から現車に該当するメーカー名、例えば、トヨタを選択すると、現車の排気量が入力可能になる。現車の排気量を例えば、3000CCと入力すると、当該メーカーから発売されている車種／タイプの選択に入る。発売されている車種／タイプの中から現車の車種／タイプを、例えば、クラウン・セダンと選択する。

【0029】ミッションは、オートマチックか、マニュアルミッションかの選択をするもので、現車のミッションの状態、例えば、オートマチックを入力する。A／Cは、エアコンで、エアコンの有・無を選択するもので、現在の普通乗用車の場合、標準でエアコン有である。また、S／Rは、サンルーフで、サンルーフの有・無を選択するもので、現在の普通乗用車の場合、標準でサンルーフ無である。さらにメーター状況であるが、メーター状況は、メーター戻しが行われているか（戻し歴が有るか）否か、現在付いているメーターが発売当初付いてい

たメーターから新しいメーターに交換したものか（交換歴が有るか）を入力する。このミッション、A／C有無、S／R有無を入力すると、現車走行距離の入力に入る。この現車走行距離は、査定対象車（中古車）の査定時まで走行した総走行距離のことで、走行距離評価（Km査定）の基礎になるもので必須入力項目である。この現車走行距離を入力しても、現車の基準走行距離（初年度登録年月日から査定時まで）に当該査定対象車が走行する平均的な走行距離を遥かに超えて走行している超多走行の場合（基準走行距離が11,000Kmであるのに、50,000Kmをオーバーするような走行距離の場合）は、原則として査定不可（査定できない）ことになり、処理を続行しようとする、暫定査定となる。この現車走行距離は、現車の査定時まで走行した総走行距離を入力すればよく、例えば、4396Kmである。

【0030】ここで、基礎データの入力終了し、次に、査定の程度の入力を行う。担当区分は、複数有る査定部署の内のどこの部署で査定したものであるかを明確にするためのものである。査定部署が複数ある場合は、複数の査定部署ごとにベースとなる査定額を変えて査定に幅を持たせることも可能である。本実施の形態においては、本部査定、支部査定、支店査定、営業所査定、ショールーム査定の5つの部署に別れており、支店査定を基本査定として、例えば、本部査定が支店査定の査定ベースの+10%、支部査定が支店査定の査定ベースの+5%、営業所査定が支店査定の査定ベースの-5%、ショールーム査定が支店査定の査定ベースの-10%の査定を行うように設定してある。査定区分は、今回の査定が、本査定なのか、暫定査定なのかの特定をするもので、本査定というのは、現車の状況を詳しく入力することによって本格的に行う査定のことで、暫定査定というのは、現車の状況を必要条件だけを入力して大体の査定額を求めるために行う査定のことである。査定担当者は、業者（ディーラー）の誰が担当したかを明確にするためのもので必須入力項目ではない。このようにして必要事項を入力すると、図4に示す如く顧客情報の入力と車種タイプの選定が終了する。

【0031】このステップ1において顧客情報の入力と車種タイプの選定を行うと、ステップ2において、現車を査定する際に必要な必須情報の入力終了したか否かを判定する。すなわち、ステップ2においては、現車を査定するに必要な基本データである初年度登録年月日、車検満了年月日、メーカー／排気量、車種／タイプ、現車走行距離の入力が終了しているか否かを判定する。これらのデータが入力されない次の処理がなされない。これら入力基本データの内、車検満了年月日と排気量は必須入力項目ではなく、データの入力がなくても処理を続行することは可能となっている。

【0032】ステップ2において現車を査定する際に必要な必須情報の入力終了したと判定すると、ステップ



3において、ステップ1において入力したメーカー／排気量、車種タイプの選定から発売期間の特定（年式の特定）を行う。この発売期間の特定は、同じ年に現車と同一の車種についてフルモデルチェンジが行われている場合、同時期に、フルモデルチェンジ前の車とフルモデルチェンジ後の車の両方が発売されており、自動的に発売期間を特定できない場合があるときに行う。例えば、平成7年12月に発売されていたトヨタ クラウン セダンは、平成7年1月から発売されている車が平成7年12月にフルモデルチェンジが行われているため、平成7年12月8日に初年度登録が行われたというだけでは、現車が平成7年1月～平成7年11月までに発売されたフルモデルチェンジ前の車なのか、平成7年12月に新しく発売されたフルモデルチェンジ後の車なのか不明となっている。そのため、平成7年12月8日に初年度登録が行われたトヨタクラウン セダンの場合は、図5に示すように平成7年12月にフルモデルチェンジが行われたことをメッセージすると共に、現車が平成7年1月～平成7年11月までに発売されたフルモデルチェンジ前の車なのか、平成7年12月に新しく発売されたフルモデルチェンジ後の車なのか入力を要求する。そこで、現車が例えば、平成7年1月～平成7年11月までに発売されたフルモデルチェンジ前の車であるという入力を行う。したがって、フルモデルチェンジが行われていない場合には、ステップ3の作業は省略され自動的に発売期間が特定される。

【0033】ステップ3において現車の発売期間の特定（年式の特定）が行われると、ステップ4において、ステップ3で特定した発売期間に発売されたステップ1で選定したメーカー／排気量、車種タイプについてのグレードを図6に示す如く一覧表示する。平成7年1月～平成7年11月に発売されたトヨタ クラウン セダン3000CCの車は、図6に示すように4つのグレードしかない。そこで、これら一覧表示されたグレードの中から、ステップ5において、現車のグレードを、例えば、RサルーンGと選択する。

【0034】ステップ5において現車のグレードの選択を行うと、ステップ6において、現車の確認を行う。すなわち、ステップ6において、ステップ1とステップ3とステップ5において選定した現車の情報に基づいて選定された車種タイプの主要諸元を図7に示す如く表示する。この主要諸元は、メーカー（例えば、トヨタ）、車種タイプ（例えば、クラウン、セダン）、発売期間（例えば、7年1月～7年11月）、排気量（例えば、3000cc）、エンジン種類（例えば、DOHC）、燃料供給装置（例えば、EFI）、駆動装置（例えば、2WD）、ドア数（例えば、4ドア）、グレード（例えば、RサルーンG）、形式（例えば、E-JZS135）、定員（例えば、5人）、ミッション（例えば、4A；フロア4速オートマチック）、新車価格（例えば、4,0

30,000円）等である（他に、過給器、屋根形状がある）。このステップ6において現車の主要諸元を確認し、現車の主要諸元に間違いがなければ、ステップ7において、現車のボディカラーの選定に移る。すなわち、ステップ7において、ステップ5において選定した車種タイプについてのボディカラーを図8に示す如く一覧表示する。選定したグレードで平成7年1月～平成7年11月に発売されたトヨタ クラウン セダン 3000CCの車は、図8に示すように6種類である。

【0035】このステップ7においてボディカラーが一覧表示されると、ステップ8において、この一覧表示された各種ボディカラーの中から現車のボディカラー（例えば、シルバーメタリック）を選択入力する。車は、同じ車種タイプ・グレードであってもボディカラーによって人気の度合いが異なり、人気ボディカラーの場合には需要が多く、不人気ボディカラーの場合には需要が少ないといったように売れ行きに大きく影響する。このため、ボディカラーの相違によって人気ボディカラーの場合には査定価格が高くなり、不人気ボディカラーの場合には査定価格が低くなるといったように査定価格にそれぞれ差が生じてくる。

【0036】ステップ8において現車のボディカラーを選択入力すると、ステップ9において、現車についての外装の現状の入力を行う。外装の現状入力は、図9に示す如く、修復歴の有無、改造車であるか否か、全塗装の必要があるか否か、現状事故車か否かの4項目である。修復歴の有無は、以前に外装破損を起こし修復してある場合、修復歴有で、外装破損を起こしていなければ修復歴無となる。改造車については、改造車でないのが原則で、改造している場合、その改造がドレスアップ改造なのか、違法改造なのかの入力が必要である。全塗装については、外装の傷みが酷く塗装をし直す必要があるか否かである。また、現状事故車については、現車の外装が事故（例えば、ぶつけて凹みがある等）を起こし、損傷のある箇所をそのままにしてある状態であるとか、事故を起こした直後で破損状態が酷い場合などである。これら修復歴有、違法改造、全塗装要、現状事故はいずれも査定上マイナス要因である。

【0037】ステップ9において現車についての外装の現状入力を行うと、ステップ10において、外装現状についての必要事項の入力が行われたか否かを判定する。すなわち、ステップ9において外装現状について修復歴の有無、改造の有無、全塗装要否、現状事故の有無の入力を行い、ステップ10において必要事項の入力が行われたと判定すると、ステップ11において、図10に示す如き外装関係の現状入力を行う。外装関係の現状入力項目としては、バンパーの状態、フェンダーの状態、エプロンの状態、ドアの状態、ミラーの状態、電動ミラーの状態、ステップの状態、ボンネットの状態、ルーフの状態、トランクの蓋の状態、トランクの床の状態、イン



ナーパネル左の状態、インナーパネル右の状態、ラジエータセルの状態、タイヤの使用の可否、ガラス交換の可否、ヘッドランプの状態、テール・コンビランプの状態がある。各項目に対しては、軽度の傷、重度の傷、軽度の凹み、重度の凹み、軽度の腐食、重度の腐食、交換を要する、のいずれかの損傷状態を入力する。これら外装関係の現状入力項目は、評価無し（損傷無し）以外は、いずれも査定上マイナス要因である。

【0038】ステップ11において外装関係の現状入力を行うと、ステップ12において、図10に示す如き外装関係の現状入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。このステップ12において図10に示す如き外装関係の現状入力の全項目に対する入力がなされたと判定すると、ステップ13において、現車についての内装の現状の入力を行う。内装の現状入力は、図11に示す如く、室内の状況、トランクルームの状況、タバコ・ベットの臭い、ダッシュボードの破損の4項目である。室内の状況は、室内の状況に問題がないかあるかで、問題がある場合、問題の状況が、室内の汚れ、シートの破損、ドア内張の破損、天井の破損、じゅうたんの破損に関する項目についてチェックをする。すなわち、室内の汚れが無いかわるか、シートの破損が無いかわるか、ドア内張の破損が無いかわるか、天井の破損が無いかわるか、じゅうたんの破損が無いかわるかを入力する。トランクルームの状況は、トランクルームの状況に問題が無いかわるか、タバコ・ベットの臭いは、車室内にタバコ・ベットの臭いが着いているか否かの問題であり、ダッシュボードの破損は、ダッシュボードが破損しているか否かの問題である。

【0039】これら内装の現状入力項目は、問題なし以外は、いずれも査定上マイナス要因である。

【0040】ステップ13において内装の現状入力を行うと、ステップ14において、図11に示す如き内装の現状入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。このステップ14において図11に示す如き内装の現状入力の全項目に対する入力がなされたと判定すると、ステップ15において、現車についての電装品の現状の入力を行う。電装品の現状入力は、図12に示す如く、エアコン、バッテリー、時計、パワーウィンドウ左前、パワーウィンドウ左後、パワーウィンドウ右前、パワーウィンドウ右後、ワイパー関係、メーターパネルの9項目である。これらについては、いずれも通常の使用が可能かどうか、すなわち、エアコンの通常の使用が可能かどうか、バッテリーの通常の使用が可能かどうか、時計の通常の使用が可能かどうか、パワーウィンドウ左前の通常の使用が可能かどうか、パワーウィンドウ左後の通常の使用が可能かどうか、パワーウィンドウ右前の通常の使用が可能かどうか、パワーウィンドウ右後の通常の使用が可能かどうか、ワイパー関係の通常の使用が可能

かどうか交換が必要か、メーターパネルの通常の使用が可能かどうかの入力を行う。

【0041】これら電装品の現状入力項目は、通常の使用が可能以外は、いずれも査定上マイナス要因である。

【0042】ステップ15において電装品の現状入力を行うと、ステップ16において、図12に示す如き電装品の現状入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。このステップ16において図12に示す如き電装品の現状入力の全項目に対する入力がなされたと判定すると、ステップ17において、現車についての機関・足回りの現状の入力を行う。機関・足回りの現状入力は、図13に示す如く、エンジン、ミッション、動力伝達装置、ステアリング、サスペンション、ブレーキ、マフラー、その他の機関・足回りの8項目である。これらについては、いずれも通常に使用できるか、通常の使用が困難かどうかの入力を行う。

【0043】これら機関・足回りの現状入力項目は、通常の使用が困難な場合は、いずれも査定上マイナス要因である。

【0044】ステップ17において機関・足回りの現状入力を行うと、ステップ18において、図13に示す如き機関・足回りの現状入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。このステップ18において図13に示す如き機関・足回りの現状入力の全項目に対する入力がなされたと判定すると、ステップ19において、現車についての装備品の現状の入力を行う。装備品の現状の入力は、図14、図15に示す如く、ステレオ・コンポ・CD、テレビ、ナビゲーション、空気清浄機、アルミホイール、スポイラー、エアバック、4WS、ABS、工具、ジャッキの10項目である。これらについては、いずれも標準装備か、オプション装備か、使用状態が使用可能か不可能かの入力を行う。ステレオ・コンポ・CD以外は、標準装備では無しで、テレビ、ナビゲーション、空気清浄機、アルミホイール、スポイラー、エアバック、4WS、ABSはオプションで追加装備となる。工具、ジャッキは、装備されているのが通常である。標準装備のステレオ・コンポ・CDについては、使用可能の状態が通常で、『無し』であったり、『使用不可』であったりした場合には、査定上マイナス要因となる。また、テレビ、ナビゲーション、空気清浄機、アルミホイール、スポイラー、エアバック、4WS、ABSについては、オプション（OP）で追加装備されていれば査定上プラス要因となる。OP-A、OP-B、OP-Cはそれぞれオプションのグレードを示しており、OP-Aが査定金額が最も高く、OP-B、OP-Cと査定金額は下がっていく。これらオプション装備品についても、使用可能の状態がどうかで査定金額は異なる。使用が不可能の状態の場合、オプション装備品を単に取り外すだけでは新車当時の仕様に戻らないような場合は、むしろ査定上マイナス要因となる。工具、ジャ

ッキは、装備されているのが当然で、工具が不足している場合、工具、ジャッキが無い場合は、査定上マイナス要因となる。さらに特に高価な工具、ジャッキがオプション装備されている場合は、その状況によって査定上プラス要因になることがある。

【0045】装備品の現状入力終了すると、現車の査定に必要な全ての情報の入力を完了することになる。そこで、このステップ19において装備品の現状入力を行うと、ステップ20において、図14、図15に示す如き装備品の現状入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。このステップ20において図14、図15に示す如き装備品の現状入力の全項目に対する入力がなされたと判定すると、ステップ21において、現車についての査定額の演算を行う。この演算は、査定ボタンを押して行うが、この査定ボタンは、図16に示す如く、5つのボタンからなり、①が標準査定、②が標準査定の+10%査定、③が標準査定の+5%査定、④が標準査定の-5%査定、⑤が標準査定の-10%査定となっている。この査定ボタンは、査定する側の裁量の余地を残したもので、交渉の成り行きによって最終査定額の調整を行うようにしたものである。この査定調整範囲は、5%10%に限らず、7%、15%でも、10%、20%でも自由に設定することができる。このように査定ボタンを押す（例えば、標準査定の①を押す）ことによって演算が開始され、その演算が終了すると、ステップ22において、演算結果が確定下取り査定額として図17に示す如く表示される。この確定下取り査定額の表示には、査定日付（例えば、平成8年11月23日）、確定下取り査定額（例えば、¥1,992,743）、有効期限（例えば、平成8年12月23日迄）が同時に表示される。

【0046】ステップ22において、演算結果が確定下取り査定額を表示すると、ステップ23において、確定下取り査定額についての査定詳細情報の表示を行うか否かの判定を行う。このステップ23において確定下取り査定額についての査定詳細情報の表示を行わないと判定すると、このフローを終了する。そして、このステップ23において、確定下取り査定額についての査定詳細情報の表示を行うと判定すると、ステップ24において、図18～図20の査定詳細情報の表示を行う。査定詳細情報の表示は、外装の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、内装の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、電装品の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、機関・足回りの現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、装備品の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、さらに、基準走行距離に対する現車走行距離による走行距離の多少に基づいた走行距離評価額のそれぞれである。本実施の形態の場合は、現車走行距離が4,396Kmであるのに対し、基準走行距離が1

1,000Kmで、この基準走行距離に対する現車は、6,654Km少走行となり、この6,654Km少走行に対する走行距離評価は、¥66,540となる。さらに、車検残についての評価額は、車検残が25ヶ月の残で¥175,000となる。この走行距離評価額、車検残の評価額は、査定上プラス要因となっている。したがって、少走行に対する走行距離評価と車検25ヶ月残の評価額を差し引いた額、¥1,751,203が車両本体の評価額となる。

【0047】したがって、本実施の形態によれば、ユーザーが持ち込んだ現車の初年度登録年月日、車検満了年月日を入力し、メーカー名、車種タイプを選定し、排気量を入力し、当該査定車のミッション、グレード、ボディカラーを特定することによって基準走行距離を前提とし初年度登録年月日に基いた基本査定価格を決定し、該決定した基本査定価格を、現車の総走行距離データによって修正して適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0048】図21には、本発明に係る中古車の評価査定の処理方法を実現するための中古車の評価査定の処理装置の一実施の形態の基本構成が示されている。図において、30はCPUで、31はROM、32はRAM、33はI/O、34は入力装置、35はディスプレイ、36は各機器を接続するバスラインである。CPU30は、不揮発性メモリーで、入力装置34からI/O33を介して入力される入力信号に基づいて駆動するもので、入力装置34の操作によって必要なデータをROM31から読み出してディスプレイ35上に表示したり、入力装置34から入力されるデータをRAM32に格納したり、ROM31内のデータとRAM32内のデータとから必要な演算を行うものである。

【0049】ROM31は、各種データを予め記憶しておくもので、ROM31には、

- a) 現存の乗用車メーカーの名称
- b) 各メーカーの現在発売している車種及び過去に発売した車種と、そのタイプ
- c) 各メーカーの各車種及びタイプについてのモデル
- d) 各メーカーの各車種及びタイプについてのグレード・エンジン・型式・駆動装置・ドア数・過給器・定員・屋根形状
- e) 各メーカーの現在発売している車種及び過去7年以内に発売した車種タイプの新車価格
- f) 各メーカーの各車種及びタイプについての各ボディカラー
- g) 各メーカーの現在発売している車種及び過去に発売した車種タイプ、ボディカラーに基づいた年式だけによる本体の基本査定価格
- h) 各メーカーの現在発売している車種及び過去に発売した車種タイプ毎の基準走行距離
- i) 各車種タイプ毎の少走行時の単位距離当りの加算金

額及び過走行時の単位距離当りの減算金額

- j) 外装の現状入力項目
- k) 外装関係の現状入力項目
- l) 内装の現状入力項目
- m) 電装品の現状入力項目
- n) 機関・足回りの現状入力項目
- o) 装備品の現状入力項目
- p) 査定調整範囲

が記憶されている。RAM 3 2は、揮発性メモリーで、入力装置 3 4から入力したデータを格納すると共に、入力装置 3 4から入力したデータに基づき演算した結果を格納する機能を有し、書き替え可能に構成されている。I/O 3 3は、入力装置 3 4とCPU 3 0とを接続するインターフェイスである。

【0050】入力装置 3 4は、データを書き込んだり、ROM 3 1に記憶されているデータをCPU 3 0に読み出させてプログラムを実行させたり、書き込んだデータに基づいてCPU 3 0に演算処理させたり、CPU 3 0で演算処理した結果をRAM 3 2に書き込ませたりする入力機器である。この入力装置 3 4は、キーボードでキー入力する方法、マウスでカーソルを移動して画面表示項目から選択入力する方法がある。また、さらに入力装置 3 4は、必要項目を記入した読取りスキャナーによる方法があり、この読取りスキャナーの場合は、車検証を読取りスキャナーで読み取らせる方法がある。この車検証を読み取らせる方法は、車検証をスキャナーに掛けることによって、車検証から顧客者の氏名、住所、査定対象者の型式（例えば、E-J Z S 1 3 5）、登録番号

（例えば、練馬 3 3 ほ 8 3 0 4）、車体番号（例えば、8 8 8 8 8）、排気量（例えば、3 0 0 0 cc）、ミッション（例えば、オートマチック）、駆動装置（例えば、2 WD）、初年度登録年月日（例えば、平成 7 年 1 2 月 8 日）を読み取るようにしたものである。また、読取りスキャナーの場合は、車検証以外に特製の査定書、マークシート等によっても可能である。ディスプレイ 3 5は、ROM 3 1から読み出したデータを表示したり、CPU 3 0で演算処理した結果を表示したりする表示装置である。バスライン 3 6は、CPU 3 0とROM 3 1を、CPU 3 0とRAM 3 2を、CPU 3 0とI/O 3 3とを接続する接続線である。

【0051】このコンピュータシステムは、オフィスコンピュータ又はパーソナルコンピュータによって構成することが可能である。この場合、あらゆる製造メーカー、製造メーカーが過去に発売した全車種タイプ、過去に発売された全車種タイプの全グレード、初年度登録年月から現在まで使用期間及び人気の度合いに基づく基準査定額、初年度登録年月日から現在までの当該車の基本走行データ等のデータは、ROM 3 1に格納することになるが、これらのデータは、社会の情勢（例えば、流行）に応じて変化するため、定期的な修正が必要で、こ

の修正は、ROM 3 1内のデータの書き替えを行うことになる。この場合、このコンピュータシステムを利用する者にデータを提供する側がROM 3 1の交換等を行うことになる。

【0052】また、このコンピュータシステムは、あらゆる製造メーカー、製造メーカーが過去に発売した全車種タイプ、過去に発売された全車種タイプの全グレード、初年度登録年月から現在まで使用期間及び人気の度合いに基づく基準査定額、初年度登録年月日から現在までの当該車の基本走行データ等、社会の情勢に応じて変化する車のあらゆるデータをホストコンピュータに持たせ、これらのデータを使用する者に端末機をもたせてランで接続することもできる。この場合、これらのデータを使用する者は端末機を操作することによって必要に応じてホストコンピュータに格納されているデータを読み出し、現車の査定を行うことができる。このように必要なデータをホストコンピュータに持たせると、これらのデータを社会の情勢に合わせて変更し、定期的（例えば、月毎に）書き替えを行うことができ、査定を行うディーラーあるいはユーザーは、最新の査定基準を手軽に入手することができることになる。

【0053】このように構成されるシステムにおいて、システムを立ち上げると、ディスプレイ 3 5に図 4 に示す如き顧客情報の入力画面が表示される。この顧客情報の入力、売手・買手を特定し、査定担当者、査定年月日（例えば、平成 8 年 1 1 月 2 3 日）を特定するためのもの、入力装置 3 4によって入力を行い、この入力データはRAM 3 2に格納される。次に入力装置 3 4を操作して予めROM 3 1に記憶されている製造メーカー名（例えば、日本のメーカーの場合、トヨタ、ニッサン、マツダ、三菱、いすゞ、ホンダ、スバル、ダイハツ）を読み出してディスプレイ 3 5に一覧表示する。この一覧表示された製造メーカー名の中から入力装置 3 4を操作して現車の製造メーカー名（例えば、トヨタ）を選定する。製造メーカーの選定を行うと、該製造メーカーの車種タイプの頭文字（例えば、ク）を選定してCPU 3 0の動作によってROM 3 1に予め記憶されている車種タイプの中から選定した頭文字（ク）の付く車種タイプ（クラウン 4 ドアハードトップ、クラウン セダン、クレスト セダン、グランビア ワゴンの 4 種）をディスプレイ 3 5に一覧表示する。この一覧に表示された車種タイプの中から現車の車種タイプ（例えば、クラウン・セダン）を入力装置 3 4によって選定する。

【0054】現車の車種タイプを選定すると、CPU 3 0の駆動によってディスプレイ 3 5に選定した車種タイプが図 4 に示す如く表記される。ディスプレイ 3 5に表示される図 4 に示す如き顧客情報の入力画面の内、入力装置 3 4によって入力するのは、初年度登録年月日（現車の登録年月日）、登録番号、車検終了年月日（現車の車検終了日）、車体番号、ミッション（オートマか、マ

ニュアルか), A/C有無, S/R有無, メーター状況, 現車走行距離である。この初年度登録年月日と車検終了年月日を入力装置34で、例えば、初年度登録:平成7年12月8日, 車検終了年月日:平成10年12月7日と入力すると、現車の年式及び車検の残存期間(25ヶ月)が決定する。

【0055】さらに査定の程度を表す担当区分(複数有る査定部署の内のどこの部署で査定したものであるかを明確にするためのもの), 査定区分(本査定か、暫定査定か), 査定を行う担当者を特定する査定担当者の特定(例えば、道祖土 一)を入力装置34によって行う。

【0056】現車のメーカー/排気量, 車種タイプが選定(例えば、トヨタ・クラウン・セダン・3000CC)され、初年度登録年月日が特定すると、同種タイプの車についてROM31に予め記憶されている発売期間(年式)を特定する。平成7年12月8日に初年度登録されたトヨタ・クラウン・セダン・3000CCは、平成7年12月にフルモデルチェンジが行われているため、平成7年12月8日に初年度登録が行われたというだけでは、現車が平成7年1月~平成7年11月までに発売されたフルモデルチェンジ前の車なのか、平成7年12月に新しく発売されたフルモデルチェンジ後の車なのか特定できないため、図5に示すように平成7年12月にフルモデルチェンジが行われたことをメッセージすると共に、現車が平成7年1月~平成7年11月までに発売されたフルモデルチェンジ前の車なのか、平成7年12月に新しく発売されたフルモデルチェンジ後の車なのか入力を行って現車の年式を、例えば、平成7年1月~平成7年11月と特定する。この特定された現車の年式は、RAM32に記憶される。

【0057】現車のメーカー/排気量, 車種タイプ, 年式が特定されると、現車と同一の車種タイプについて、ROM31に予め記憶されている現車の年式の各種グレードと共にエンジン, 型式, 駆動装置, ドア数, 過給器, 定員, 屋根形状がディスプレイ35に図6に示す如く一覧表示される。このディスプレイ35に一覧表示される図6に示す如き各種グレードの中から現車と同一のグレード(例えば、RサルーンG)を入力装置34によって選定し、この入力装置34によって選定されたグレードはする。

【0058】このように現車のメーカー/排気量, 車種タイプ, 初年度登録年月日, ミッション, グレードの選定を行うと、CPU30の動作によって、ディスプレイ35に現車の主要諸元(メーカー, 車種タイプ, 発売期間, 排気量, エンジン種類, 燃料供給装置, 過給器, 駆動装置, ドア数, 屋根形状, グレード, 型式, 定員, ミッション, 新車価格, 類別区分)を図7に示す如く表示する。

【0059】ディスプレイ35に表示される図7の如き現車の主要諸元を確認し、入力装置34によって確認の

入力を行うと、CPU30が動作して、図8に示す如く、現車と同一車種タイプの車として発売された当時の各種ボディーカラーが一覧表示される。この図8に示される平成6年1月に発売されたトヨタ・クラウン・セダンのボディーカラーの中から現車のボディーカラー(例えば、シルバーメタリック)を入力装置34によって選択入力する。車のボディーカラーは、同じ車種タイプ・グレードであっても人気の度合いが異なり、売れ行を左右する要素となっており、中古車市場における需要度に大きな影響を与えている。そこで、一覧表示された各種ボディーカラーの中から現車のボディーカラーを選択入力することによって、同一のメーカー・車種タイプ・年式・グレードについて予めROM31に記憶されている基本本体査定価格が決定される。

【0060】現車のボディーカラーを選択入力すると、CPU30が駆動し、ROM31に予め記憶されている図9に示す如き外装の現状入力(修復歴の有無, 改造車であるか否か, 全塗装の必要があるか否か, 現状事故車か否かの4項目)を読み出してディスプレイ35に表示して、入力装置34によって必要事項の入力を行う。外装の現状入力の入力を行うと、CPU30が駆動し、ROM31に予め記憶されている図10に示す如き外装関係の現状入力(バンパーの状態, フェンダーの状態, エプロンの状態, ドアの状態, ミラーの状態等)を読み出してディスプレイ35に表示して、入力装置34によって必要事項の入力を行う。外装関係の現状入力の入力を行うと、CPU30が駆動し、ROM31に予め記憶されている図11に示す如き内装の現状入力(室内の状況, トランクルームの状況, タバコ・ペットの臭い, ダッシュボードの破損の4項目)を読み出してディスプレイ35に表示して、入力装置34によって必要事項の入力を行う。内装の現状入力の入力を行うと、CPU30が駆動し、ROM31に予め記憶されている図12に示す如き電装品の現状入力(エアコン, バッテリー, 時計, パワーウィンドウ等の使用可否)を読み出してディスプレイ35に表示して、入力装置34によって必要事項の入力を行う。電装品の現状入力の入力を行うと、CPU30が駆動し、ROM31に予め記憶されている図13に示す如き機関・足回りの現状入力(エンジン, ミッション, 動力伝達装置, ステアリング, サスペンション, ブレーキ, マフラー, その他の機関・足回りの8項目)を読み出してディスプレイ35に表示して、入力装置34によって必要事項の入力を行う。機関・足回りの現状入力の入力を行うと、CPU30が駆動し、ROM31に予め記憶されている図14, 図15に示す如き装備品の現状入力(ステレオ・コンポ・CD, テレビ, ナビゲーション, 空気清浄機, アルミホイール, スポイラー, エアバック, 4WS, ABS, 工具, ジャッキの10項目)を読み出してディスプレイ35に表示して、入力装置34によって必要事項の入力を行う。

【0061】そして、査定を開始するスイッチである査定ボタン（ディスプレイ35上でも、入力装置34でも可）を入力すると、CPU30が駆動し、RAM32に記憶された諸データに基づいて査定演算を行う。この査定ボタンは、図16に示す如く、5つのボタンからなり、①が標準査定、②が標準査定の+10%査定、③が標準査定の+5%査定、④が標準査定の-5%査定、⑤が標準査定の-10%査定となっている。

【0062】このように査定ボタンを押す（例えば、標準査定の①を押す）ことによって演算が開始され、その演算が終了すると、演算結果が図17に示す如き確定下取り査定額としてディスプレイ35に表示される。この確定下取り査定額の表示には、査定日付（例えば、平成8年11月23日）、確定下取り査定額（例えば、¥1,992,743）、有効期限（例えば、平成8年12月23日迄）が同時に表示される。

【0063】このディスプレイ35に表示される確定下取り査定額に対しては、査定の詳細をディスプレイ35に表示させる（査定詳細情報の表示）こともできるようになっている。査定詳細情報の表示には、外装の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、内装の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、電装品の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、機関・足回りの現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、装備品の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、さらに、基準走行距離に対する現車走行距離による走行距離の多少に基づいた走行距離評価額が詳細に示されている。

【0064】走行距離評価は、車には各車種のそれぞれにおいて独自の平均走行距離があり、この平均走行距離に対して現車が少走行であれば車の傷みが少ない筈であるし、平均走行距離に対して現車が過走行であれば車の傷みが多い筈であることから少走行か過走行かによって査定額に差を持たせようとしたものである。

【0065】図22～図26には、本発明に係る中古車の評価査定の処理方法及び中古車の評価査定の処理装置の他の実施の形態が示されている。本発明に係る中古車の評価査定の処理方法は、コンピュータによって処理されるもので、図22～図26には、本発明に係る中古車の評価査定の処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートが示されている。図におい、ステップ40～ステップ46までの処理は、図1に示すステップ1～ステップ7と同様である。

【0066】ステップ46において図8に示す如ボディカラーが一覧表示されると、ステップ47において、この一覧表示された各種ボディカラーの中から現車のボディカラー（例えば、シルバーメタリック）を選択入力する。ステップ47において現車のボディカラーを選択入力すると、ステップ48において、現車についての外装の現状の入力を図27に示す如く行う。すなわ

ち、外装の現状入力については、修復歴有り、改造車であるか否かについては改造無し、全塗装の必要無し、現状事故車であるという入力を行う。

【0067】ステップ48において現車の外装の現状を図27に示す如く入力すると、ステップ49において、現車の外装現状において修復歴無しか否かを判定する。ステップ48において現車の外装の現状が修復歴無しではない（修復歴有り）と入力してある場合は、ステップ50において、図28に示す如き修復歴の状況の入力を行う。すなわち、修復歴の入力箇所として、右前（中度）、前面（OK）、左前（OK）、フロアパネル（OK）、右横（中度）、左横（OK）、トランクフロア（OK）、右後（OK）、後面（OK）、左後（OK）、屋根（OK）を入力する。右前と右横の中度は、修復の程度を表しており、OKは、修復の無しを表している。ステップ49において現車の外装現状において修復歴有りとは判定したにも拘らずステップ50において、図28に示す如き修復歴の状況の入力を全く行わないで処理を続行する場合には、本査定ではなく暫定査定となる。

【0068】ステップ50において現車についての修復歴の状況入力を行うと、ステップ51において、修復歴箇所の入力が行われたか否かを判定する。このステップ51においては、ステップ48において修復歴有りとは入力しているため、少なくとも1か所以上の修復歴の入力がなければならず、少なくとも1か所以上の修復歴の入力が行われるのを待つ。

【0069】ステップ51において修復歴箇所の入力が行われたと判定するか、またはステップ49において修復歴無しと判定すると、ステップ52において、現車について現状で事故車でないか否かを判定する。現状で事故車ということは、現車の外装が事故（例えば、ぶつけて凹みがある等）を起こし、損傷のある箇所をそのままにしてある状態であるとか、事故を起こした直後で破損状態が酷い場合などである。前記ステップ48において現車の現状で事故車であると入力してある場合は、ステップ53において、図29に示す如き現車の事故箇所の現状入力を行う。すなわち、ステップ53における事故箇所の入力箇所として、右前（OK）、前面（OK）、左前（OK）、フロアパネル（OK）、右横（OK）、左横（OK）、トランクフロア（重度）、右後（中度）、後面（重度）、左後（中度）、屋根（OK）、フレーム&第一メンバーの交換、修正（あり）を入力する。右後と左後の中度、トランクフロアと後面の重度は、事故の程度を表しており、OKは、修復の無しを表している。

【0070】ステップ53において現車についての現状事故箇所の状況入力を行うと、ステップ54において、現状事故箇所の入力が行われたか否かを判定する。このステップ54においては、ステップ49において現状事

故車と判定しているため少なくとも1か所以上の現状事故箇所の入力が必要で、現状事故箇所の入力が行われるのを待つ。このステップ49において現状事故車と判定したにも拘らずステップ53において、図29に示す如き修復歴の状況の入力を全く行わないで処理を続行する場合には、本査定ではなく暫定査定となる。

【0071】ステップ54において現状事故箇所の入力が行われたと判定するか、またはステップ52において現車が現状で事故車でないと判定すると、ステップ55において、図30に示す如き外装関係の現状入力を行う。外装関係の現状としてバンパーの状態（リア：×）、フェンダーの状態（右後：×）、エプロンの状態（リア：D）、ドアの状態（異常なし）、ミラーの状態（異常なし）、電動ミラーの状態（異常なし）、ステップの状態（異常なし）、ボンネットの状態（C）、ルーフの状態（異常なし）、トランクの蓋の状態（×）、トランクの床の状態（D）、インナーパネル左の状態（異常なし）、インナーパネル右の状態（異常なし）、ラジエータセルの状態（異常なし）、タイヤの使用の可否（左前後・右前後：異常なし、スペア：無し）、ガラス交換の要否（フロント・左前後ドア・右前後ドア：不要、リア：必要）、ヘッドランプの状態（異常なし）、テール・コンビランプの状態（交換要）を入力する。各項目に対しては、軽度の傷（A）、重度の傷（B）、軽度の凹み（C）、重度の凹み（D）、軽度の腐食（E）、重度の腐食（F）、交換を要する（×）、のいずれかの損傷状態を記号で入力する。これら外装関係の現状入力項目は、評価無し（損傷無し）以外は、いずれも査定上マイナス要因である。

【0072】ステップ55において外装関係の現状入力を行うと、ステップ56において、図30に示す如き外装関係の現状入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。ステップ56において、図30に示す如き外装関係の現状入力の全項目に対する入力がなされたと判定すると、ステップ57において、室内の状況に問題ないかの判定を行う。

【0073】ステップ57において室内の状況に問題があると判定すると、ステップ58において、図30に示す如く、室内の状況について、室内の汚れ有り、シートの破損有り、ドア内張の破損無し、天井の破損無し、じゅうたんの破損の無しを入力する。このステップ58において室内の状況の入力が行われると、ステップ59において、室内の状況の問題箇所の入力が終了するのを待つ。このステップ59において室内の状況の問題箇所の入力が終了したと判定するか、またはステップ57において室内の状況に問題がないと判定すると、ステップ60において、図30に示す如く、トランクルームの状況に問題のあり、室内にタバコ・ペットの臭い（室内の臭い）の問題が有り、ダッシュボードの破損の無しの入力を行う。ステップ60において各種項目の入力が行われ

ると、ステップ61において、トランクルームの状況、タバコ・ペットの臭い、ダッシュボードの破損に関する内装の現状入力がなされたか否かの判定を行い、トランクルームの状況、タバコ・ペットの臭い、ダッシュボードの破損に関する内装の現状入力が完了するのを待つ。このステップ61において内装の現状入力が終了したと判定すると、ステップ62において、図32に示す如き電装品の現状入力を行う。すなわち、電装品の現状として、エアコン（通常の使用可）、バッテリー（通常の使用可）、時計（通常の使用可）、パワーウィンドウ左前（通常の使用可）、パワーウィンドウ左後（通常の使用可）、パワーウィンドウ右前（通常の使用可）、パワーウィンドウ右後（通常の使用可）、ワイパー関係（通常の使用可）、メーターパネル（通常の使用可）を入力する。これら電装品の現状入力項目は、通常の使用が可能以外は、いずれも査定上マイナス要因である。

【0074】ステップ62において電装品の現状入力を行うと、ステップ63において、図32に示す如き電装品の現状入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。このステップ63において図32に示す如き電装品の現状入力の全項目に対する入力がなされたと判定すると、ステップ64において、現車についての機関・足回りの現状の入力を行う。機関・足回りの現状入力は、図33に示す如く、エンジン、ミッション、動力伝達装置、ステアリング、サスペンション、ブレーキ、マフラー、その他の機関・足回りの8項目について通常に使用できると入力する。

【0075】これら機関・足回りの現状入力項目は、通常の使用が困難な場合は、いずれも査定上マイナス要因である。

【0076】ステップ64において機関・足回りの現状入力を行うと、ステップ65において、図33に示す如き機関・足回りの現状入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。このステップ65において図33に示す如き機関・足回りの現状入力の全項目に対する入力がなされたと判定すると、ステップ66において、現車についての装備品の現状の入力を行う。

【0077】装備品の現状として、図34、図35に示す如く、ステレオ・コンポ・CD（標準・使用可能）、テレビ（無し）、ナビゲーション（無し）、空気清浄機（無し）、アルミホイール（無し）、スポイラー（無し）、エアバック（無し）、4WS（無し）、ABS（無し）、工具、ジャッキ（使用可能）を入力する。なお、テレビ、ナビゲーション、空気清浄機、アルミホイール、スポイラー、エアバック、4WS、ABSについては、オプション（OP）で追加装備されていれば査定上プラス要因となる。OP-A、OP-B、OP-Cはそれぞれオプションのグレードを示しており、OP-Aが査定金額が最も高く、OP-B、OP-Cと査定金額は下がっていく。これらオプション装備品についても、



使用可能の状態か否かで査定金額は異なる。使用が不可能の状態の場合、オプション装備品を単に取り外すだけでは新車当時の仕様に戻らないような場合は、むしろ査定上マイナス要因となる。工具、ジャッキは、装備されているのが当然で、工具が不足している場合、工具、ジャッキが無い場合は、査定上マイナス要因となる。

【0078】このステップ66において装備品の現状入力を行うと、ステップ67において、図34、図35に示す如き装備品の現状入力についての全項目の入力がなされたか否かの判定を行う。

【0079】ステップ67において図34、図35に示す如き装備品の現状入力の全項目に対する入力がなされたと判定すると、ステップ68において、図36に示す如き各種減額、修理実費の入力を行う。各種減額・修理実費については、査定評価において減額・修理の対象となる評価をした箇所の評価減の金額を入力する。外装関係では、重度の修復歴有りで、-200,000円、さらに重度の現状事故車で、-200,000円である。内装関係では、室内の状況（室内の汚れ・シートの破損）で、-35,000円、トランクルームの破損で、-50,000円、さらに、室内の臭い（タバコ・ペット）で、-25,000円を入力する。その他の項目は、減額の対象となっていないので金額の挿入はしていない。なお、違法改造の場合の違法改造減額（ステップ48において現車が違法改造車であると入力した場合）と全塗装を必要とする場合の減額（ステップ48において現車に全塗装を必要とする場合と入力した場合）については、予め設定されている減額（例えば、違法改造車については一律200,000円の減額、全塗装を必要とする場合は一律200,000円の減額）が表示されるようになっているが、本実施の形態では両方の項目共に減額の対象となっていない。また、外装に関するバンパーの状態、フェンダーの状態、エプロンの状態、ドアの状態、ミラーの状態、電動ミラーの状態、ステップの状態、ボンネットの状態、ルーフの状態、トランクの蓋の状態、トランクの床の状態、インナーパネル左の状態、インナーパネル右の状態、ラジエータセルの状態、タイヤの使用の可否、ガラス交換の要否、ヘッドランプの状態、テール・コンビランプの状態についての減額は、状態の程度に応じて予め設定されている減額が表示されるが、本実施の形態では減額の対象となっていない。

【0080】さらに、電装品に関するエアコン、バッテリー、時計、パワーウィンドウ、ワイパー関係については予め設定されている減額が、メーターパネルについては査定時に査定者が入力した減額が、それぞれ表示されるが、本実施の形態では減額の対象となっていない。また、機関・足回りに関するエンジン、ミッション、動力伝達装置、ステアリング、サスペンション、ブレーキ、マフラー、その他の機関・足回りについては、査定時に査定者が入力した金額が、減額としてそのまま表示され

るが、本実施の形態では減額の対象となっていない。さらにまた、装備品に関するステレオ・コンポ・CD、テレビ、ナビゲーション、空気清浄機、アルミホイール、スポイラー、エアバック、4WS、ABS、工具、ジャッキについては、査定時に査定者が入力した金額が、減額としてそのまま表示されるが、本実施の形態では減額の対象となっていない。

【0081】この各種減額、修理実費の入力に当たっては、本実施の形態においては、ステップ41において修復歴有りと判定したときの重度の修復歴有りに基づく減額200,000円、ステップ49において現状事故車であると判定したときの重度の現状事故車に基づく減額200,000円、ステップ54において室内の状況に問題ありとして例えば室内の汚れ有り及びシートの破損有りとしたときの減額35,000円、ステップ49においてトランクルームの破損による減額50,000円、同じくステップ49において室内の臭いによる減額25,000円を入力する。

【0082】なお、本実施の形態においては評価しなかったが、各種減額、修理実費の中には、テレビを装備した場合の使用可否による増額、ナビゲーションを装備した場合の使用可否による増額、空気清浄機を装備した場合の使用可否による増額、アルミホイールを装備した場合の使用可否による増額、スポイラーを装備した場合の使用可否による増額、エアバックを装備した場合の使用可否による増額、4WSを装備した場合の使用可否による増額、ABSを装備した場合の使用可否によっては増額という評価査定を行えるようにすることもできる。

【0083】ステップ68において各種減額、修理実費の入力を行うと、ステップ69において、現車についての査定額の演算を行う。この演算は、査定ボタンを押して行うが、この査定ボタンは、図16に示す如く、5つのボタンからなり、①が標準査定、②が標準査定の+10%査定、③が標準査定の+5%査定、④が標準査定の-5%査定、⑤が標準査定の-10%査定となっている。この査定ボタンは、査定する側の裁量の余地を残したもので、交渉の成り行きによって最終査定額の調整を行うようにしたものである。この査定調整範囲は、5%10%に限らず、7%、15%でも、10%、20%でも自由に設定することができる。

【0084】このように査定ボタンを押す（例えば、標準査定の①を押す）ことによって演算が開始され、その演算が終了すると、ステップ70において、演算結果が確定下取り査定額として図37に示す如く表示される。この確定下取り査定額の表示には、査定日付（例えば、平成8年11月23日）、確定下取り査定額（例えば、¥1,154,743）、有効期限（例えば、平成8年12月23日迄）が同時に表示される。また、この図16に示される5つのボタンの内の②を押すと標準査定の+10%査定金額（例えば、¥1,359,863）

が、③を押すと標準査定＋5%査定金額（例えば、¥1,242,303）が、④を押すと標準査定－5%査定金額（例えば、¥1,067,183）が、⑤を押すと標準査定－10%査定金額（例えば、¥979,623）がそれぞれ表示されることになる。

【0085】ステップ70において演算結果（標準査定）が確定下取り査定額（¥1,154,743）として表示されると、ステップ71において、確定下取り査定額についての査定詳細情報の表示を行うか否かの判定を行う。このステップ71において、確定下取り査定額についての査定詳細情報の表示を行わないと判定すると、このフローを終了する。そして、このステップ71において、確定下取り査定額についての査定詳細情報の表示を行うと判定すると、ステップ72において、図38～図40の査定詳細情報の表示を行う。査定詳細情報の表示は、外装の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、内装の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、電装品の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、機関・足回りの現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、装備品の現状について入力した各項目についてのそれぞれの金額、さらに、基準走行距離に対する現車走行距離による走行距離の多少に基づいた走行距離評価額のそれぞれである。すなわち、外装関係における減額評価は、バンパー（－50,000）、フェンダー（－50,000）、エプロン（－25,000）、ボンネット（－20,000）、トランク（－75,000）、タイヤ（－8,000）、ガラス（－80,000）、テール・コンビランプ（－20,000）、修復歴有り（－200,000）、現状事故車（－200,000）である。その他、ドア、ミラー、電動ミラー、ステップ、ルーフ、インナーパネル、ヘッドランプ、改造車、全塗装要については、評価0（評価減無し）である。内装関係における減額評価は、室内の状況（－25,000）、トランクルームの破損等（－50,000）、室内の臭い（－25,000）である。その他、ダッシュボードについては、評価0（評価減無し）である。電装関係のエアコン、バッテリー、時計、パワーウィンドウ、ワイパー関係、メーターパネルは、いずれも評価0（評価減無し）である。また、機関・足回りのエンジンの修理等、ミッションの修理等、動力伝達装置の修理等、ステアリングの修理等、サスペンションの交換、ブレーキの修理等、マフラーの修理等、その他の機関の修理等は、いずれも評価0（評価減無し）である。装備品関係のステレオ・コンポ・CD、テレビ、ナビゲーション、空気清浄機、アルミホイール、スポイラー、エアバック、4WS、ABS、工具、ジャッキは、いずれも評価0（評価減無し）である。

【0086】さらに、現車の基準走行距離は、11,000Kmであるのに対し、本実施の形態の場合は、現車

走行距離が4,396Kmとなっており、現車は、基準走行距離に対して6,654Kmの少走行となっている。このため、この6,654Kmの少走行に対する走行距離評価が、¥66,540となる。また、現車の車検満了日が平成10年12月と25ヶ月残っており、車検残25ヶ月となる。この車検残についての評価額は、¥175,000となり、少走行距離評価額、車検残評価額は、いずれも査定上プラス要因となる。したがって、少走行に対する走行距離評価と車検25ヶ月残の評価額を差し引いた額、¥1,241,203が車両本体の評価額となる。現車の年式（発売期間）、グレード、ボディカラー、現車走行距離、車検の残存期間だけに基づく査定評価額は、¥1,992,743であり、現車走行距離による加算金額が¥66,540で、車検残についての評価額が¥175,000であるため、車両本体の評価額は、¥913,203となる。

【0087】なお、図示していないが、この図38～図40の査定詳細情報の表示には、隠しボタンがあり、この隠しボタンを選定すると、査定者による調整額の入力が可能となる。この調整額は、車両本体の査定評価額（¥913,203）に取り引き上の上乗せをするために設けたもので、査定者が、例えば、¥50,000と入力すると、最終査定評価額が5万円アップした¥963,203ということになる。

【0088】したがって、本実施の形態によれば、ユーザーが持ち込んだ現車の初年度登録年月日、車検満了年月日を入力し、メーカー名、車種タイプを選定し、排気量を入力し、当該査定車のミッション、グレード、ボディカラーを特定することによって基本査定価格を決定し、該決定した基本査定価格を、現車の総走行距離データによって修正して適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0089】これらの査定内容は、図21に図示のRAM32内に格納することができ、現車の査定実績が記憶される。このようにRAM32内に現車の査定実績を格納することによって、時間（期間）を隔てて再度現車について査定したときに前回の査定内容との比較を行うことができる。

【0090】また、現車についての車両本体の査定評価額（本実施の形態においては、¥913,203）が決定すると、具体的な商談に入るが、ユーザーが車両本体の査定評価額を見積りとして参考にする場合には、見積りボタンを選定することにより、一定の書式に基く見積書（図示していない）として印刷（プリントアウト）することになり、商談が成立し、ユーザーがディーラーに車両本体の査定評価額で譲渡する場合には、契約ボタンを選定することにより、一定の書式に基く売買書（図示していない）として印刷（プリントアウト）することができる。

【0091】

【発明の効果】本願請求項1に記載の発明によれば、適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0092】本願請求項2に記載の発明によれば、外装の現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0093】本願請求項3に記載の発明によれば、内装の現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0094】本願請求項4に記載の発明によれば、電装品の現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0095】本願請求項5に記載の発明によれば、機関・足回りの現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0096】本願請求項6に記載の発明によれば、外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況を加味した最適なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0097】本願請求項7に記載の発明によれば、査定ベース額に裁量を加えてディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0098】本願請求項8に記載の発明によれば、一旦査定したディーラー査定価格に裁量を加えて演算して再査定による確定査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0099】本願請求項9に記載の発明によれば、外装の現況を正確に把握し、ディーラー査定価格に適正に反映させ、適正な確定査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0100】本願請求項10に記載の発明によれば、内装の現況を正確に把握し、ディーラー査定価格に適正に反映させ、適正な確定査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0101】本願請求項11に記載の発明によれば、電装品の現況を正確に把握し、ディーラー査定価格に適正に反映させ、適正な確定査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0102】本願請求項12に記載の発明によれば、機関・足回りの現況を正確に把握し、ディーラー査定価格に適正に反映させ、適正な確定査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0103】本願請求項13に記載の発明によれば、適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0104】本願請求項14に記載の発明によれば、外装の現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0105】本願請求項15に記載の発明によれば、内装の現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

も簡単に短時間で算出することができる。

【0106】本願請求項16に記載の発明によれば、電装品の現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0107】本願請求項17に記載の発明によれば、機関・足回りの現況を加味した適正なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【0108】本願請求項18に記載の発明によれば、外装の現況、内装の現況、電装品の現況、機関・足回りの現況を加味した最適なディーラー査定価格を誰にでも簡単に短時間で算出することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る中古車の評価査定の処理方法の一実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図2】本発明に係る中古車の評価査定の処理方法の一実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図3】本発明に係る中古車の評価査定の処理方法の一実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図4】顧客情報の入力と車種タイプの選定表示図である。

【図5】発売期間を特定するための図である。

【図6】グレードを一覧表示した図である。

【図7】現車の情報に基づいて選定された車種タイプの主要諸元を表示する図である。

【図8】ボディカラーの一覧表示図である。

【図9】外装の現状を入力するための図である。

【図10】外装関係の現状を入力するための図である。

【図11】内装の現状を入力するための図である。

【図12】電装品の現状を入力するための図である。

【図13】機関・足回りの現状を入力するための図である。

【図14】装備品の現状を入力するための図である。

【図15】装備品の現状を入力するための図である。

【図16】査定ボタンを示す図である。

【図17】確定下取り査定額を表示する図である。

【図18】査定詳細情報を表示した図である。

【図19】査定詳細情報を表示した図である。

【図20】査定詳細情報を表示した図である。

【図21】本発明に係る中古車の評価査定の処理装置の一実施の形態を示す基本ブロック図である。

【図22】本発明に係る中古車の評価査定の処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図23】本発明に係る中古車の評価査定の処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図24】本発明に係る中古車の評価査定の処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

【図25】本発明に係る中古車の評価査定の処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

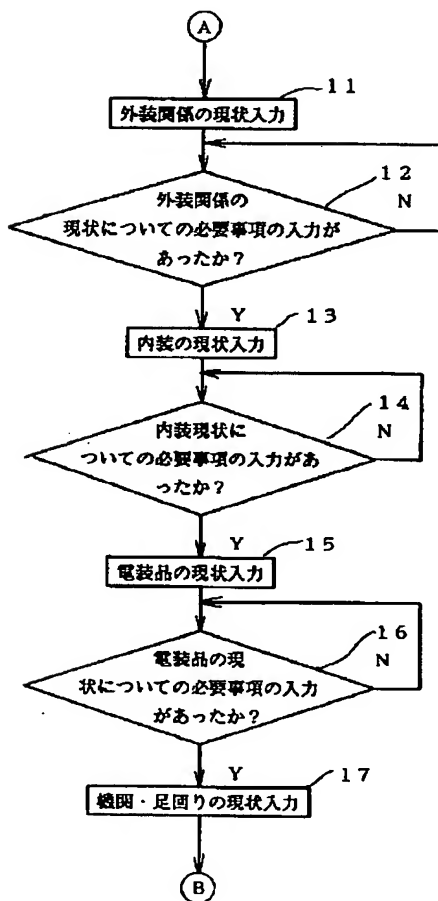
【図26】本発明に係る中古車の評価査定の処理方法の他の実施の形態を示す査定処理フローチャートである。

- 【図27】外装の現状を入力した図である。  
 【図28】修復歴の状況を入力するための図である。  
 【図29】現車の事故箇所の現状を入力するための図である。  
 【図30】外装関係の現状を入力した図である。  
 【図31】内装の現状を入力した図である。  
 【図32】電装品の現状を入力した図である。  
 【図33】機関・足回りの現状を入力した図である。  
 【図34】装備品の現状を入力した図である。  
 【図35】装備品の現状を入力した図である。  
 【図36】各種減額、修理実費を入力するための図である。  
 【図37】確定下取り査定額を表示した図である。  
 【図38】査定詳細情報を表示した図である。  
 【図39】査定詳細情報を表示した図である。  
 【図40】査定詳細情報を表示した図である。

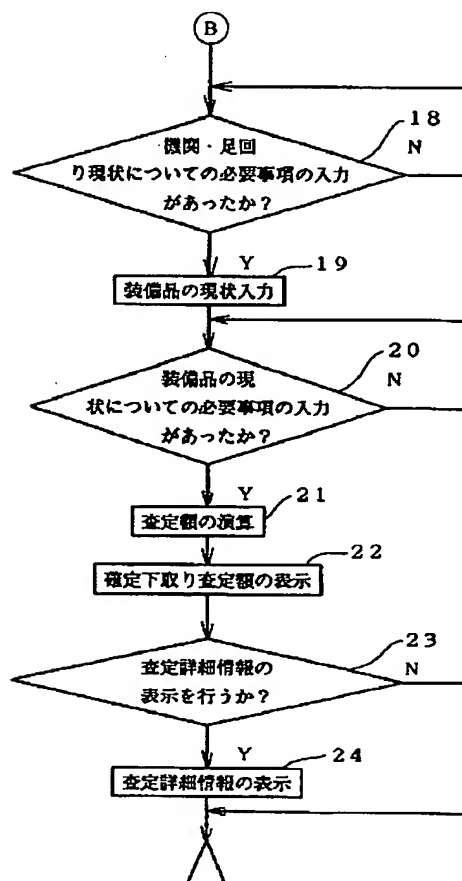
## 【符号の説明】

30	.....C P
U	
31	.....R O
M	
32	.....R A
M	
33	.....I /
O	
34	.....入力装
置	
35	.....ディスプレ
ー	
36	.....バスライ
ン	

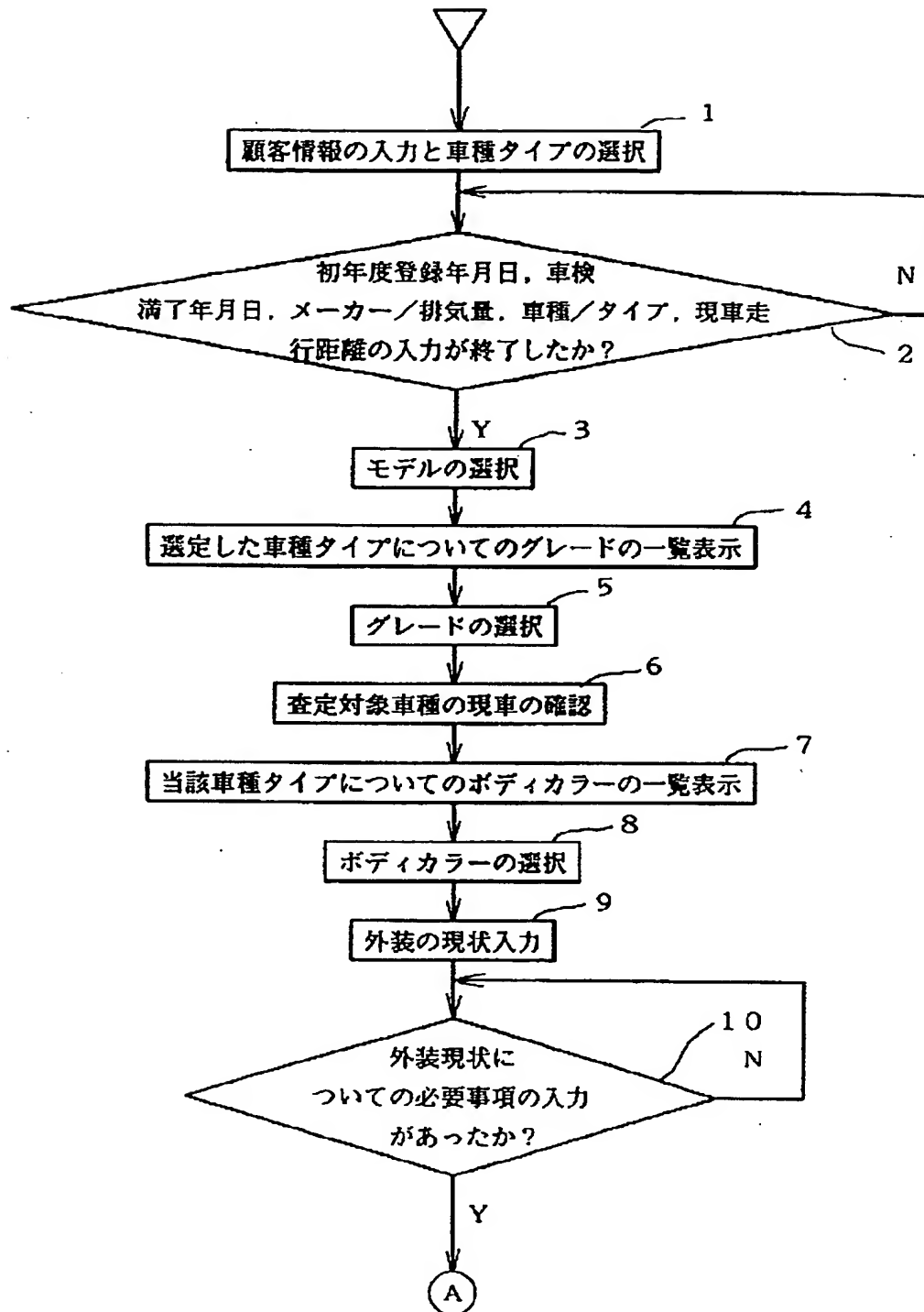
【図2】



【図3】



【図1】



【図4】

## 顧客情報の入力と車種タイプの選択

顧客名 日本 太郎 様 ( ニホンタロウ )  
 顧客住所/電話 東京都港区広尾 1-3-25 (03)3897-2465

初年度登録年月日 平成 7 年 12 月 8 日  
 登録番号 群馬 - 33 - 13 - 8304  
 登録完了年月日 平成 10 年 12 月 7 日  
 車台番号 88888  
 メーカー/排気量 トヨタ 3000 cc  
 車種/タイプ クラウン セダン  
 ミッション ☐オートマ ☐マニュアル  
 A/C有無 ☐有り ☐無し  
 S/R有無 ☐有り ☐無し  
 メーター状況 ☐正常 ☐交換歴有 ☐交換歴無  
 現車走行距離 4396 Km

担当区分 ☐本部 ☐支部 ☐支店 ☐営業所 ☐ショールーム  
 査定区分 ☐本査定 ☐留定査定  
 査定担当者 遊祖士 -

【図5】

## モデルの選択

トヨタ クラウン セダン

発売期間

平成 7 年 12 月 ~ 平成 7 年 12 月 フルモデルチェンジ

平成 7 年 1 月 ~ 平成 7 年 11 月

【図9】

## 外装の現状入力

修復歴 ☐修復歴無し ☐修復歴有り  
 改造車 ☐改造無し ☐ドレスアップ改造 ☐違法改造  
 全塗装 ☐全塗装の必要無し ☐全塗装の必要有り  
 現状事故車 ☐事故車ではない ☐事故車である

【図10】

## 外装関係の現状入力

バンパー フロント ☐ リア ☐ フェンダー 左前 ☐ 左後 ☐ 右前 ☐ 右後 ☐ エアロン フロント ☐ リア ☐ ドア 左前 ☐ 左後 ☐ 右前 ☐ 右後 ☐ ミラー 左 ☐ 右 ☐ 電動ミラー 左 ☐ 右 ☐ ステップ 左 ☐ 右 ☐ ボンネット ☐ ルーフ ☐ トランクの蓋 ☐ トランクの底 ☐ インナーパネル左 ☐ インナーパネル右 ☐ ラジエーターセル ☐

タイヤ 左前 ☐ ☐使用可 ☐不可 左後 ☐ ☐使用可 ☐不可 右前 ☐ ☐使用可 ☐不可 右後 ☐ ☐使用可 ☐不可 スペア ☐ ☐有り ☐無し  
 ガラスの交換 フロント ☐ ☐不要 ☐必要 左前ドア ☐ ☐不要 ☐必要 左後ドア ☐ ☐不要 ☐必要 右前ドア ☐ ☐不要 ☐必要 右後ドア ☐ ☐不要 ☐必要 リア ☐ ☐不要 ☐必要

ヘッドランプ ☐ OK ☐球交換要 ☐交換要  
 テール・コンビランプ ☐ OK ☐球交換要 ☐交換要

指定された車種は上記の通りモデルがチェンジされています。

旧モデルか新モデルかの選択をして下さい。



【図6】

グレードの選択

トヨタ クラウン セダン 発売期間 7 年 1 月 ~ 7 年 11 月

グレード	エンジン 型 式	駆動 装置	ドア 速給器	定員	屋根形状
RサルーンG マルチV	3000 DOHC	EFI	2WD	4ドア	5
	E-JZS135		PS, PW		
RサルーンG	3000 DOHC	EFI	2WD	4ドア	5
	E-JZS135		PS, PW		
Rサルーン マルチV	3000 DOHC	EFI	2WD	4ドア	5
	E-JZS133		PS, PW		
Rサルーン	3000 DOHC	EFI	2WD	4ドア	5
	E-JZS133		PS, PW		

【図7】

現車の確認

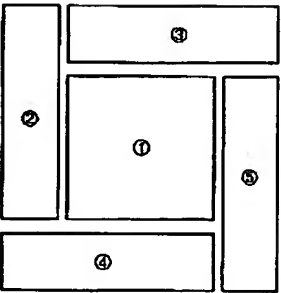
メーカー トヨタ

車 種 クラウン セダン

発売期間 7 年 1 月 ~ 7 年 11 月

排気量	3000 CC	グレード	RサルーンG
エンジン種類	DOHC	型 式	E-JZS135
燃料供給装置	EFI	定 員	5 人
速 給 器		ミッション	4A フロア4速オートマチック
駆動装置	2WD	新車価格	4,030,000 円
ド ア 数	4ドア	類別区分	001,002
屋根形状			

【図16】



【図8】

ボディカラーの選択				発注期間	
トヨタ	クラウン	セダン	平成 7 年 1 月	平成 7 年 11 月	
正式色名称			イメージカラー		
<input type="checkbox"/>	シルバーメタリック	シルバー	銀		
<input type="checkbox"/>	スーパーホワイトⅡ	ホワイト	白		
<input type="checkbox"/>	ダークターコイズマイカ	ディーアブルー	群青		
<input type="checkbox"/>	ダークブルーイッシュグレーメタリック	ダークブルーメタリック	青鉄		
<input type="checkbox"/>	ダークブルーマイカフタロシアニン	ダークブルー	紺		
<input type="checkbox"/>	ブラック	ブラック	黒		

【図11】

内装の現状入力	
室内の状況	<input type="radio"/> 問題なし <input type="radio"/> 問題あり
室内の汚れ	<input type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有
シートの破損	<input type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有
ドア内張の破損	<input type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有
天井の破損	<input type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有
じゅうたんの破損	<input type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有
トランクルームの状況	<input type="radio"/> 問題なし <input type="radio"/> 問題あり
タバコ・ベットの臭い	<input type="radio"/> 問題なし <input type="radio"/> 問題あり
ダッシュボードの破損	<input type="radio"/> 問題なし <input type="radio"/> 問題あり

【図12】

電装品の現状入力	
エアコン	<input type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 通常の使用不可
バッテリー	<input type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 交換が必要
時計	<input type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 交換が必要
パワーウィンドウ左前	<input type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 作動不可修理要
パワーウィンドウ左後	<input type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 作動不可修理要
パワーウィンドウ右前	<input type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 作動不可修理要
パワーウィンドウ右後	<input type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 作動不可修理要
ワイパー関係	<input type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 交換が必要
メーターパネル	<input type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 通常の使用不可

【図13】

機関・足回りの現状入力	
エンジン	<input type="radio"/> 通常に使用できる <input type="radio"/> 通常の使用が困難
ミッション	<input type="radio"/> 通常に使用できる <input type="radio"/> 通常の使用が困難
動力伝達装置	<input type="radio"/> 通常に使用できる <input type="radio"/> 通常の使用が困難
ステアリング	<input type="radio"/> 通常に使用できる <input type="radio"/> 通常の使用が困難
サスペンション	<input type="radio"/> 通常に使用できる <input type="radio"/> 通常の使用が困難
ブレーキ	<input type="radio"/> 通常に使用できる <input type="radio"/> 通常の使用が困難
マフラー	<input type="radio"/> 通常に使用できる <input type="radio"/> 通常の使用が困難
その他の機関・足回り	<input type="radio"/> 通常に使用できる <input type="radio"/> 通常の使用が困難

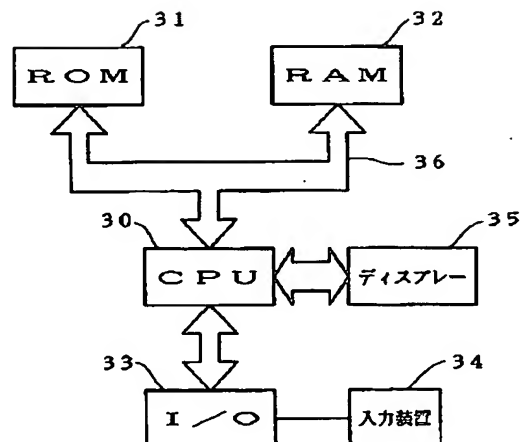
【図14】

装備品の現状入力	
ステレオ・コンボ・CD	<input type="radio"/> 録音 <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> OP-A <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> OP-B <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> OP-C <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 無し <input type="radio"/> 不可
テレビ	<input type="radio"/> 録音 <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> OP-A <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> OP-B <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> OP-C <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 無し <input type="radio"/> 不可
ナビゲーション	<input type="radio"/> 録音 <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> OP-A <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> OP-B <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> OP-C <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 無し <input type="radio"/> 不可
空気清浄機	<input type="radio"/> 録音 <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> OP-A <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> OP-B <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> OP-C <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 無し <input type="radio"/> 不可
アルミホイール	<input type="radio"/> 録音 <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> OP-A <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> OP-B <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> OP-C <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 無し <input type="radio"/> 不可
スポイラー	<input type="radio"/> 録音 <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> OP-A <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> OP-B <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> OP-C <input type="radio"/> 使用可能 <input type="radio"/> 無し <input type="radio"/> 不可

【図15】

エアバック		4 W S	
<input type="radio"/> 録音 <input type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 録音 <input type="radio"/> 使用可能		
<input type="radio"/> OP-A <input type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> OP-A <input type="radio"/> 使用可能		
<input type="radio"/> OP-B <input type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> OP-B <input type="radio"/> 使用可能		
<input type="radio"/> OP-C <input type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> OP-C <input type="radio"/> 使用可能		
<input type="radio"/> 無し <input type="radio"/> 不可	<input type="radio"/> 無し <input type="radio"/> 不可		
A B S	工具、ジャッキ		
<input type="radio"/> 録音 <input type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> 録音 <input type="radio"/> 使用可能		
<input type="radio"/> OP-A <input type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> OP-A <input type="radio"/> 使用可能		
<input type="radio"/> OP-B <input type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> OP-B <input type="radio"/> 使用可能		
<input type="radio"/> OP-C <input type="radio"/> 使用可能	<input type="radio"/> OP-C <input type="radio"/> 使用可能		
<input type="radio"/> 無し <input type="radio"/> 不可	<input type="radio"/> 無し <input type="radio"/> 不可		

【図21】



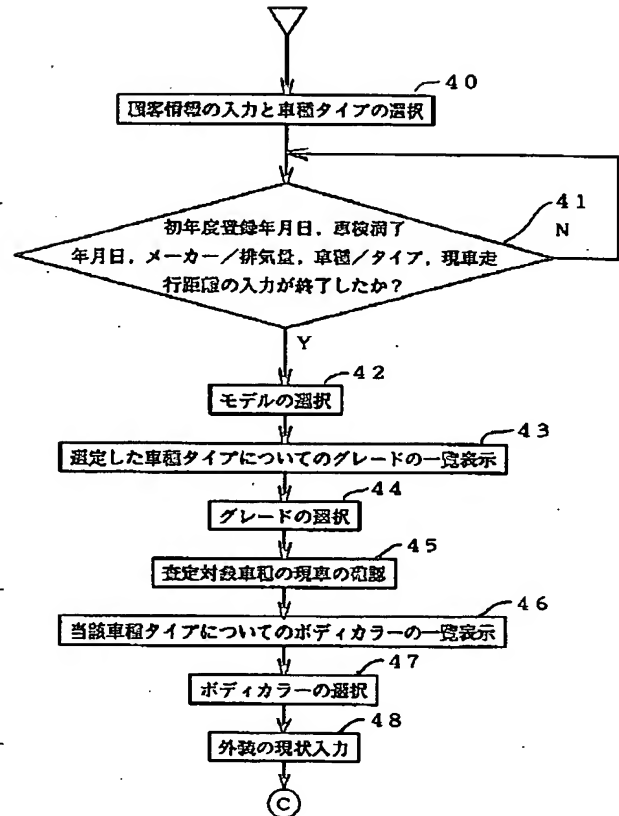
【図17】

確定下取り査定額の表示		
顧客名	日本 太郎 様	
メーカー	トヨタ	
車種/タイプ	クラウン	セダン
グレード	RサルーンG	
排気量	3000 CC	
ボディカラー	シルバーメタリック	
初年度登録日	7 年 12 月 8 日	
登録番号	船馬 - 33 - ほ - 8304	
車台番号	88888	
車検満了日	10 年 12 月 7 日	
査定拠点名/Tel	ナイス・センター渋谷店	03-3487-8353
査定担当者	進祖土 一	
査定日付	8 年 11 月 23 日	
確定下取り査定額	¥1,992,743	
有効期限	8 年 12 月 7 日迄	

【図19】

電 装	エ ア コ ン	
	バ ッ テ リ	
	時 計	
	パワーウィンドウ	
	ワイパー関係	
	メーターパネル	
機 関 ・ 足 回 り	エンジンの修理等	
	ミッションの修理等	
	動力伝達装置の修理等	
	ステアリングの修理等	
	サスペンションの交換	
	ブレーキの修理等	
	マフラーの修理等	
	その他の機関の修理等	

【図22】



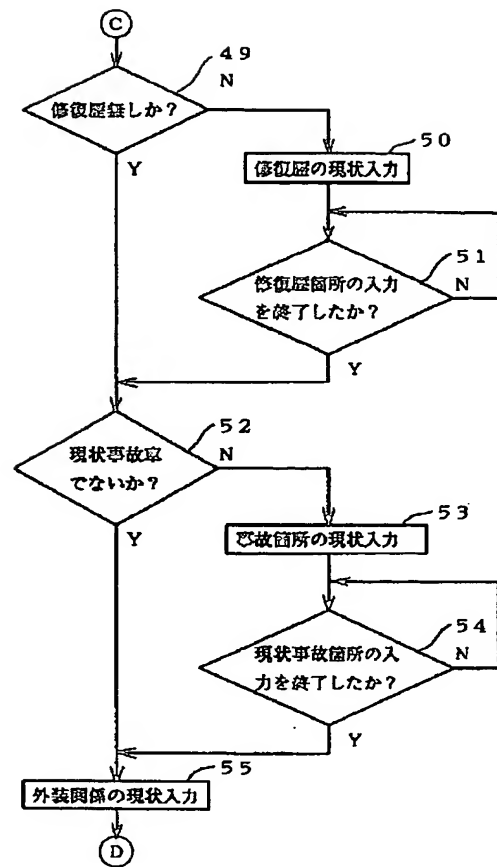
【図33】

機関・足回りの現状入力		
エンジン	◎通常に使用できる    ○通常の使用が困難	
ミッション	◎通常に使用できる    ○通常の使用が困難	
動力伝達装置	◎通常に使用できる    ○通常の使用が困難	
ステアリング	◎通常に使用できる    ○通常の使用が困難	
サスペンション	◎通常に使用できる    ○通常の使用が困難	
ブレーキ	◎通常に使用できる    ○通常の使用が困難	
マフラー	◎通常に使用できる    ○通常の使用が困難	
その他の機関・足回り	◎通常に使用できる    ○通常の使用が困難	

【図18】

査定詳細情報の表示				
外装	バンパー		タイヤ	
	フェンダー		ガラス	
	エアロン		インナーパネル	
	ドア		ラジエタセル	
	ミラー		ヘッドランプ	
	電動ミラー		テールランプ	
	ステップ		修復歴有り	
	ボンネット		改造車	
	ルーフ		全塗装済	
	トランク		現状事故車	
内装	室内の状況			
	トランクルームの破損等			
	室内の臭い			
	ダッシュボード			

【図23】



【図27】

外装の現状入力		
修復歴	○修復歴無し      ◎修復歴有り	
改造車	◎改造無し    ○ドレスアップ改造    ○違法改造	
全塗装	◎全塗装の必要無し      ○全塗装の必要有り	
現状事故車	○事故車ではない      ◎事故車である	

【図35】

エアバック		4 W S	
○標準	◎使用可能	○標準	◎使用可能
○DP-A		○DP-A	
○DP-B		○DP-B	
○DP-C	○使用	○DP-C	○使用
◎無し	不可	◎無し	不可
A B S		工具、ジャッキ	
○標準	◎使用可能	◎ 使用可能	
○DP-A		○ 使用不可	
○DP-B			
○DP-C	○使用		
◎無し	不可		

【図20】

装 備 品	ステレオ・コンボ・CD	
	テレビ	
	ナビゲーション	
	空気清浄機	
	アルミホイール	
	スポイラー	
	エアバック	
	4 W S	
	A B S	
	工具、ジャッキ	

---

現車走行距離	4,396 Km
基準走行距離	11,000 Km
	6,654 Km 少走行です
走行距離評価	¥66,540

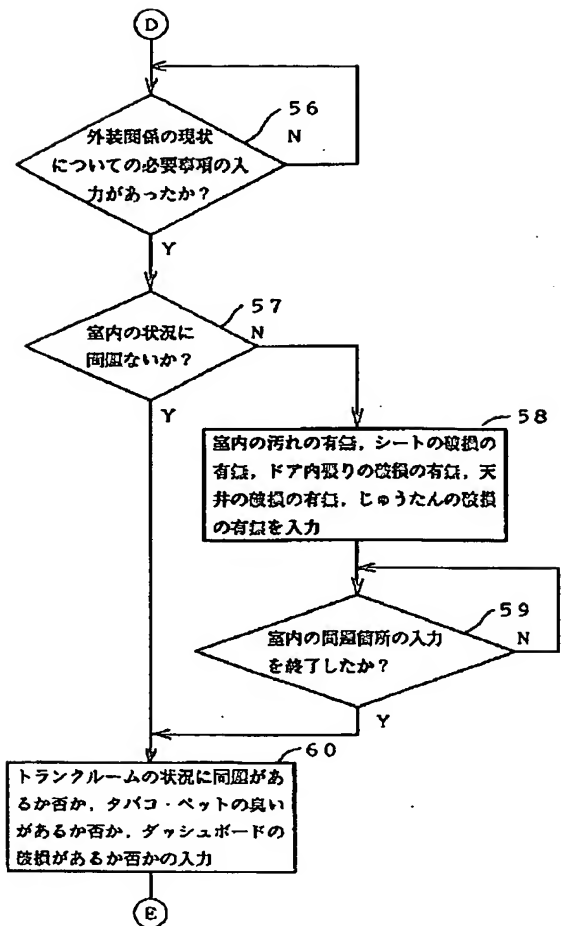
---

車検費	25ヶ月分	175,000
-----	-------	---------

---

最終買取額	¥1,992,743
-------	------------

【図24】



【図29】

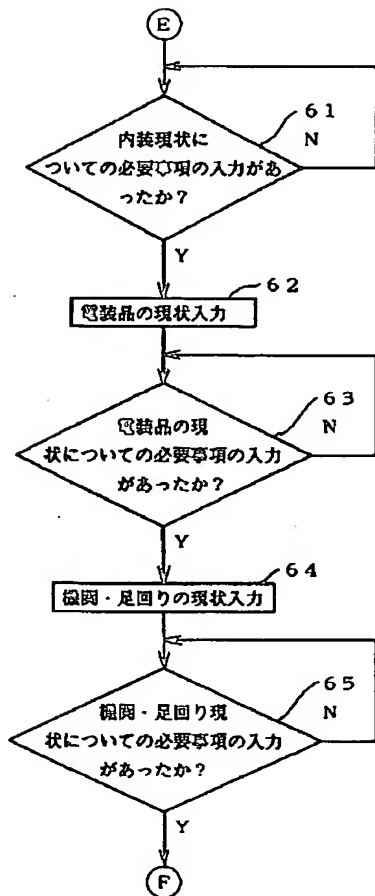
## 事故箇所の現状入力

Diagram illustrating the current status input for accident locations on a car:

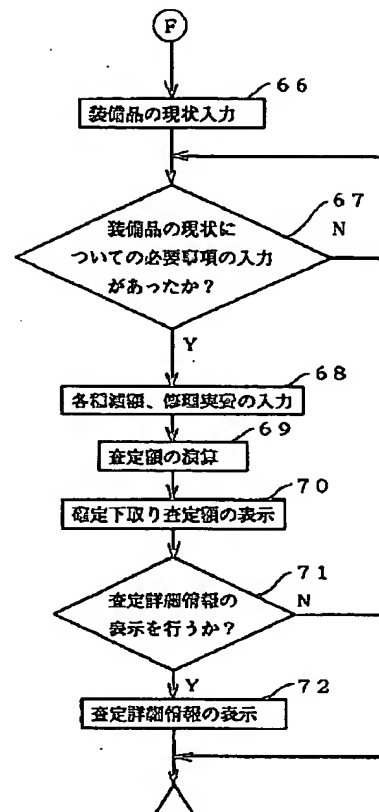
- 右前: ◎OK◎程度  
○中程度◎程度
- 右後: ◎OK◎程度  
○中程度◎程度
- 前面: ◎OK◎程度  
○中程度◎程度
- 左前: ◎OK◎程度  
○中程度◎程度
- 左後: ◎OK◎程度  
○中程度◎程度
- 右側: ◎OK◎程度  
○中程度◎程度
- 左側: ◎OK◎程度  
○中程度◎程度
- 後面: ◎OK◎程度  
○中程度◎程度
- フロアパネル: ◎OK◎程度  
○中程度◎程度
- 左後: ◎OK◎程度  
○中程度◎程度
- トランクフロア: ◎OK◎程度  
○中程度◎程度
- フレーム&ローメンバーの交換、修正: ◎あり◎なし



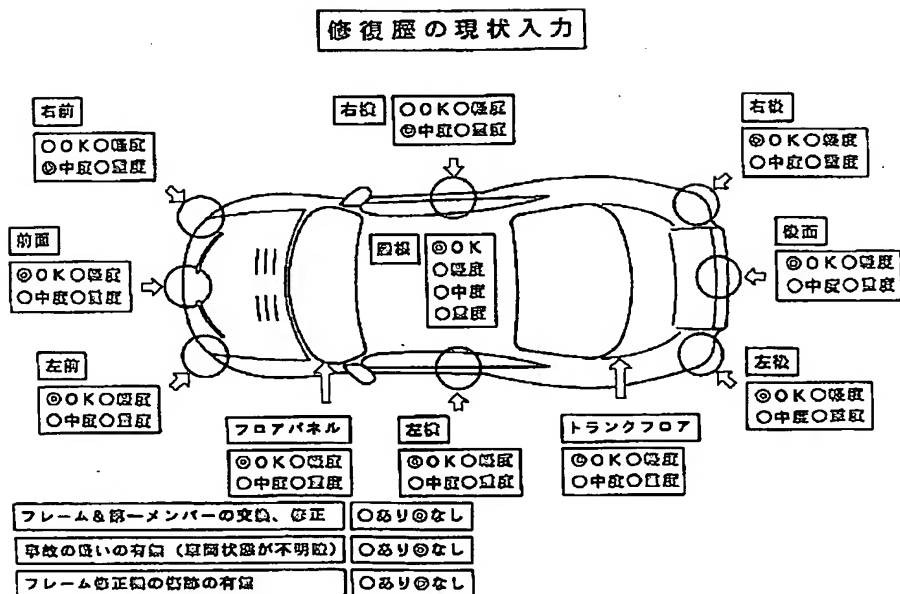
【図25】



【図26】



【図28】



【図30】

外装関係の現状入力			
バンパー		ドア	
フロント		左 前	
リ ア	X	左 後	
フェンダー		右 前	
左 前		右 後	
左 後		後 部	
右 前		ミラー	
右 後	X	左	
エプロン		右	
フロント		後部ミラー	
リ ア	D	左	
		右	
		ステップ	
		左	
		右	
		ボンネット	C
		ルーフ	
		トランクの蓋	X
		トランクの床	D
		インナーパネル左	
		インナーパネル右	
		ラジエーターセル	
タイヤ			
左 前	◎使用可 ○不可	フロント	◎不変 ○必要
左 後	◎使用可 ○不可	左前ドア	◎不変 ○必要
右 前	◎使用可 ○不可	左後ドア	◎不変 ○必要
右 後	◎使用可 ○不可	右前ドア	◎不変 ○必要
スベア	○有り ◎無し	右後ドア	◎不変 ○必要
		リ ア	○不変 ◎必要
ガラスの交換			
ヘッドランプ		◎OK ○球交換要 ○交換要	
テール・コンビランプ		◎OK ○球交換要 ◎交換要	

【図31】

内装の現状入力	
室内の状況	○同題なし ◎同題あり
室内の汚れ	○無 ◎有
シートの破損	○無 ◎有
ドア内張の破損	◎無 ○有
天井の破損	◎無 ○有
じゅうたんの破損	◎無 ○有
トランクルームの状況	○同題なし ◎同題あり
タバコ・ベットの臭い	○同題なし ◎同題あり
ダッシュボードの破損	◎同題なし ○同題あり

【図39】

電 装	エ ア コ ン	0
	バ ッ テ リ	0
	時 計	0
	パワーウィンドウ	0
	ワイパー関係	0
	メーターパネル	0

機 関 ・ 足 回 り	エンジンの修理等	0
	ミッションの修理等	0
	動力伝達装置の修理等	0
	ステアリングの修理等	0
	サスペンションの交換	0
	ブレーキの修理等	0
	マフラーの修理等	0
その他の機関の修理等	0	

【図32】

## 電装品の現状入力

エアコン	<input checked="" type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 通常の使用不可
バッテリー	<input checked="" type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 交換が必要
時計	<input checked="" type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 交換が必要
パワーウィンドウ左前	<input checked="" type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 作動不可修理要
パワーウィンドウ左後	<input checked="" type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 作動不可修理要
パワーウィンドウ右前	<input checked="" type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 作動不可修理要
パワーウィンドウ右後	<input checked="" type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 作動不可修理要
ワイパー関係	<input checked="" type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 交換が必要
メーターパネル	<input checked="" type="radio"/> 通常の使用可 <input type="radio"/> 通常の使用不可

【図34】

## 装備品の現状入力

ステレオ・コンボ・CD		テレビ	
<input checked="" type="radio"/> 録音 <input type="radio"/> DP-A <input type="radio"/> DP-B <input type="radio"/> DP-C <input type="radio"/> 無し	<input checked="" type="radio"/> 使用可能  <input type="radio"/> 使用不可	<input type="radio"/> 録音 <input type="radio"/> DP-A <input type="radio"/> DP-B <input type="radio"/> DP-C <input checked="" type="radio"/> 無し	<input type="radio"/> 使用可能  <input type="radio"/> 使用不可
ナビゲーション		空気清浄機	
<input type="radio"/> 録音 <input type="radio"/> DP-A <input type="radio"/> DP-B <input type="radio"/> DP-C <input checked="" type="radio"/> 無し	<input type="radio"/> 使用可能  <input type="radio"/> 使用不可	<input type="radio"/> 録音 <input type="radio"/> DP-A <input type="radio"/> DP-B <input type="radio"/> DP-C <input checked="" type="radio"/> 無し	<input type="radio"/> 使用可能  <input type="radio"/> 使用不可
アルミホイール		スポイラー	
<input type="radio"/> 録音 <input type="radio"/> DP-A <input type="radio"/> DP-B <input type="radio"/> DP-C <input checked="" type="radio"/> 無し	<input type="radio"/> 使用可能  <input type="radio"/> 使用不可	<input type="radio"/> 録音 <input type="radio"/> DP-A <input type="radio"/> DP-B <input type="radio"/> DP-C <input checked="" type="radio"/> 無し	<input type="radio"/> 使用可能  <input type="radio"/> 使用不可

【図36】

## 各種減額、修理費費の入力

外装関係		電装品	
盗度の修復歴有り	200,000 円	メーターパネル	円
違法改造車	円		
盗度の現状事故率	200,000 円	装飾品	
		ステレオ	円
内装関係		テレビ	円
室内の状況	35,000 円	ナビゲーション	円
ドアガードの破損	50,000 円	空気清浄機	円
室内の臭い	25,000 円	アルミホイール	円
ドアガードの破損	円	スポイラー	円
		エアバック	円
鋼管・足回り	円	4 W S	円
エンジン	円	A B S	円
ミッション	円		
動力伝達装置	円	電装品	
ステアリング	円	メーターパネル	円
サスペンション	円		
ブレーキ	円		
マフラー	円		
他機関・足回り	円		

【図37】

## 確定下取り査定額の表示

顧客名	日本 太郎 様		
メーカー	トヨタ		
車種/タイプ	クラウン	セダン	
グレード	RサルーンG		
排気量	3000 cc		
ボディカラー	シルバーメタリック		
初年度登録日	7 年	12 月	8 日
登録番号	群馬 - 33 - 33 - 8304		
車体番号	88888		
車検終了日	10 年	12 月	7 日
査定拠点名/Tel	ナイス・センター渋谷店	03-3487-8353	
査定担当者	遊祖土 -		
査定日付	8 年	11 月	23 日
確定下取り査定額	¥1,154,743		
有効期限	8 年	12 月	23 日迄

【図38】

## 査定詳細情報の表示

外 装	バンパー	-50,000	タイヤ	-8,000
	フェンダー	-50,000	ガラス	-80,000
	エアロン	-25,000	インナーパネル	0
	ドア	0	ラジエーターセル	0
	ミラー	0	ヘッドランプ	0
	電動ミラー	0	テールランプ	-20,000
	ステップ	0	修復歴有り	-200,000
	ボンネット	-20,000	改造車	0
	ルーフ	0	全装装要	0
	トランク	-75,000	現状事故車	-200,000

内 装	室内の状況	-35,000
	トランクルームの破損等	-50,000
	室内の具い	-25,000
	ダッシュボード	0

【図40】

装 備 品	ステレオ・コンボ・CD	0
	テレビ	0
	ナビゲーション	0
	空気清浄機	0
	アルミホイール	0
	スボイラー	0
	エアバック	0
	4 W S	0
	A B S	0
	工具、ジャッキ	0

現車走行距離	4,396 Km
基準走行距離	11,000 Km
	6,654 Km
	少走行です
走行距離評価	¥66,540

車検残	25ヶ月残	175,000
-----	-------	---------

最終買取額

¥1,154,743